

平成25年度

宮城県小・中・高等学校

体力・運動能力調査報告書

－ 子どもたち一人一人の体力向上にむけて －



平成26年3月

宮 城 県 教 育 委 員 会

はじめに

震災から3年が経過しましたが、現在もなお、厳しい環境の中で児童生徒の体力・運動能力向上のために様々な実践をされている各関係機関の皆様及び各学校の先生方に改めて御礼申し上げます。

さて、本県児童生徒の体力・運動能力は、平成元年度以降、平成12年度頃まで長期低下傾向を示しており、これを受け、県教育委員会として平成15年度から体力向上に向けたプロジェクトを立ち上げ、対策に取り組んでまいりました。その結果、平成18年度から平成21年度までは低下傾向に歯止めがかかり、向上傾向も窺われたところですが、しかし、平成21年度から平成22年度に再び低下傾向を示し、震災後の平成24年度には中・高校生は向上傾向を示しましたが、小学生は継続して低下傾向を示しました。今年度は、小学生については向上した種目もありましたが、依然として低下している種目もみられ、昨年度向上傾向を示した中・高校生についても、今年度は低下した種目が多くみられたところですが。

東日本大震災後、校庭に仮設住宅が設置されるなど運動環境に制限のある学校もある中で、震災の影響も含めて今後もその動向を注意深く見守っていく必要があると考えております。

こうしたことから、本年度の報告書は、地域の状況を踏まえ、各市町村教育委員会及び各学校が、子どもたち一人一人の体力・運動能力向上にむけて、より活用しやすいものとなるよう、以下の点で充実・改善を加えることとしました。

1 震災前後の比較及び課題の整理

震災後、運動環境に制限があるなど、運動不足が懸念される中、震災前後の3年間に重点を置き、各地域の状況を詳しくみることにしました。各地域、学校において児童生徒の体力の現状及び課題をそれぞれ把握し、対策を講じるための資料としてください。

2 各学校での今後の向上策の参考となる資料の掲載

各学校で実践されている児童生徒の体力・運動能力を向上させるための取組事例や課題種目の指導例などの参考資料を掲載しましたので、各学校で活用願います。

3 全国平均値との比較対象の統一化

昨年度まで行っていた全国平均値との比較については、全国平均値の対象児童生徒が抽出であるのに対し、本県調査は悉皆調査であり、標本母数に大きな差があることから、同じ条件で調査が行われている「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）」の結果から全国平均値との比較を行うことにしました。

なお、この調査結果については昨年12月に公表されたものを引用しており、同調査との統一化を図りました。

4 詳細データ等のホームページへの掲載

昨年度まで当報告書に掲載していた詳細データ等については、県教育委員会スポーツ健康課のホームページ（※）に掲載しましたのでご覧ください。

各学校においては、当報告書を、児童生徒の体力・運動能力向上のための資料とし、児童生徒自らが楽しく運動・スポーツに取り組もうとする意欲を育てていただきたいと思います。

結びになりますが、当調査の分析業務を担当していただきました宮城教育大学教育学部前田順一教授をはじめ保健体育講座の方々に心から感謝申し上げますとともに、生涯を通じて健康で活力ある生活が送れるよう、本県の子どもの体力・運動能力が向上することを願って挨拶いたします。

（※ 県教育委員会 スポーツ健康課 URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/supoken/>）

平成26年3月

宮城県教育庁スポーツ健康課
課長 松坂 孝

目 次

ページ

I 震災前後の比較について

1	校種別の平成25年度と平成22年度（震災前）との結果比較	1
2	校種別の平成25年度と平成24年度（前年度）との結果比較	2
3	校種別、測定項目別の3カ年の経年結果比較	3
4	平成25年度・平成24年度と平成22年度（震災前）の県全体及び管内毎の結果比較	
(1)	宮城県全体	8
(2)	大河原教育事務所管内	11
(3)	仙台教育事務所管内	14
(4)	北部教育事務所管内	17
(5)	栗原地域事務所管内	20
(6)	東部教育事務所管内	23
(7)	登米地域事務所管内	26
(8)	南三陸教育事務所管内	29
5	教育事務所・地域事務所 管内別 中期経年変化（H15～H25年度 小5・中2男女）	
(1)	大河原教育事務所管内	32
(2)	仙台教育事務所管内	33
(3)	北部教育事務所管内	34
(4)	栗原地域事務所管内	35
(5)	東部教育事務所管内	36
(6)	登米地域事務所管内	37
(7)	南三陸教育事務所管内	38
6	長期経年変化（S39年度～H25年度）〔50m走：小5・中2・高2〕	39
7	13年間（中期）の変化率及び、2年間（震災後）の変化率	40
8	平成25年度体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）結果から	
(1)	対象学年の体力合計点の推移	41
(2)	平成25年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要（宮城県分）から	42
9	震災前後の比較	44

II 今後の体力・運動能力の向上にむけて

1	震災前後の比較等からみえてきた課題	45
2	課題解決に向けた平成26年度の県教育委員会の取組	45
3	各学校に期待される取組（例）	45
4	参考資料の活用	45
5	参考資料	
(1)	各学校の参考例	46
(2)	立ち幅とびの指導のポイント	49
(3)	ソフトボール投げの指導のポイント	50
(4)	握力測定について	51

I 震災前後の比較について



平成25年度宮城県小・中・高等学校体力・運動能力調査結果の概要

1 校種別の平成25年度と平成22年度（震災前）との結果比較

東日本大震災による被災が、本県の小・中・高校生の体力・運動能力に影響を与えているかどうかについて検討するため、まず、平成25年度の体力・運動能力調査の結果と震災前（平成22年度）の結果を、校種別、測定項目別に比較することとした。

区 分	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20m シャトルラン		持久走		50m 走		立ち幅とび		ボール投げ		
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
小 学 校	1	—	—	—	—	—	+	+	+	+				—	—	—	—	—	
	2	—			+	+	+	+	+	+				+	—	+	—	—	
	3	—	—	+	+				—	+	+				+	—	+	—	—
	4	—			+		+		+		+			—		—		—	—
	5	—	—	+	+	+					—					—		—	—
	6	—	—		+	+			+					—				—	—
中 学 校	1	—	—	+		+	+	+		—	—	—						—	—
	2	—	—	+	+	+	+					—		+	+	—	—	—	—
	3	—	—	+	+		+				—	+	—	+	+	—	—	—	—
高 等 学 校	1	—		+	+	—	+	+	+			—				—	—	—	—
	2	—			+	—	+	+	+	—	—			+		—	—		—
	3	—		+	+			+	+					+	+	—		+	

【表の記号について】

- ・**+**は明らかに向上した測定項目である。
- ・**—**は明らかに低下した測定項目である。
- ・空欄は、有意な差はみられない測定項目である。

【「1」結果概要】

	低下種目の割合	向上種目の割合	低下が見られる種目	向上が見られる種目
小学校	37.5%	30.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・握力 ・立ち幅とび ・ボール投げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横とび ・20mシャトルラン
中学校	40.7%	29.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・握力 ・立ち幅とび ・ボール投げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・上体起こし ・長座体前屈 ・50m走
高等学校	29.6%	31.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・握力 ・立ち幅とび ・ボール投げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・上体起こし ・反復横とび ・50m走
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、向上種目の割合よりも低下種目の割合が多くなっている。特に、握力、ボール投げでほとんどの学年男女が低下している。しかし、上体起こし、反復横とび、20mシャトルランで向上している学年が多くなっている。 ・中学校では、向上種目の割合よりも低下種目の割合が多くなっている。小学校同様、握力、ボール投げが低下しており、立ち幅とびも2・3年生男女で低下している。しかし、上体起こし、長座体前屈、50m走ではほとんどの学年で向上している。 ・高等学校では、低下種目の割合よりも向上種目の割合が多くなっている。上体起こしや、反復横とびではほとんどの学年で向上している。 			

2 校種別の平成25年度と平成24年度（前年度）との結果比較

震災以降の経年的な変化をみるため、平成25年度の体力・運動能力調査の結果と平成24年度（前年度）の結果を、校種別、測定項目別に比較することとした。

区 分		握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20m シャトルラン		持久走		50m 走		立ち幅とび		ボール投げ		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
小 学 校	1	—	—	—	—			+	+	+	+				—		—		—	
	2	—	—	—	—	+	+	+	+	+	+			—		—				
	3		—		—		—	+	+	+	+					+				
	4	—	—		+		+	+	+	+	+				+	—		—	+	
	5			+				+	+	+	+								—	—
	6	—		—		+		+	+		+				—				—	
中 学 校	1	—	—	+				+	+				—						—	
	2	—	—	+	+				—	—		—		+			—		—	
	3	—	—	+	+		+	—	—	—	—		—			—	—	—	—	
高 等 学 校	1	—	—	+	+			+		—		—		—		—	—	—		
	2	—	—			—	+	—		—	—					—	—	—	—	
	3	—	—			—	—	—	—	—	—			+		—	—		—	

【表の記号について】

- ・ **+** は明らかに向上した測定項目である。
- ・ **—** は明らかに低下した測定項目である。
- ・ 空欄は、有意な差はみられない測定項目である。

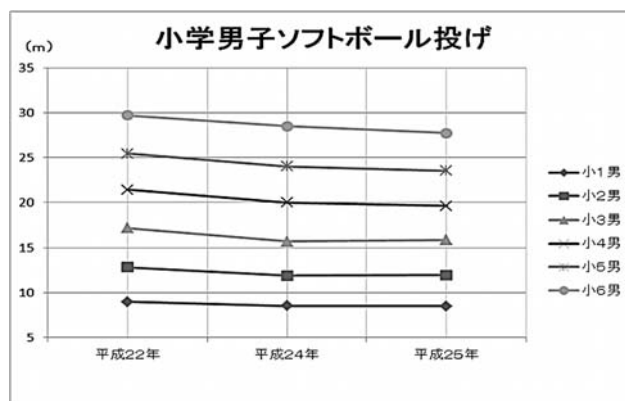
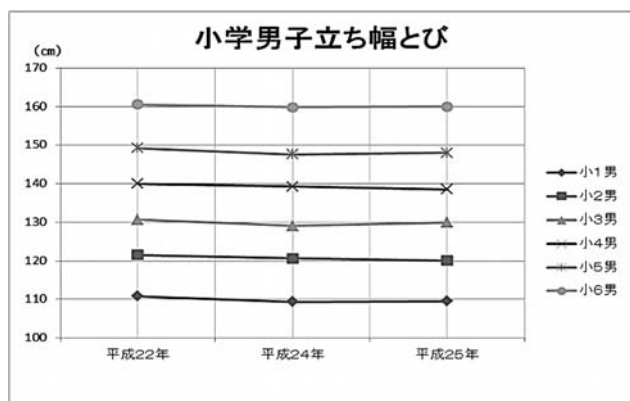
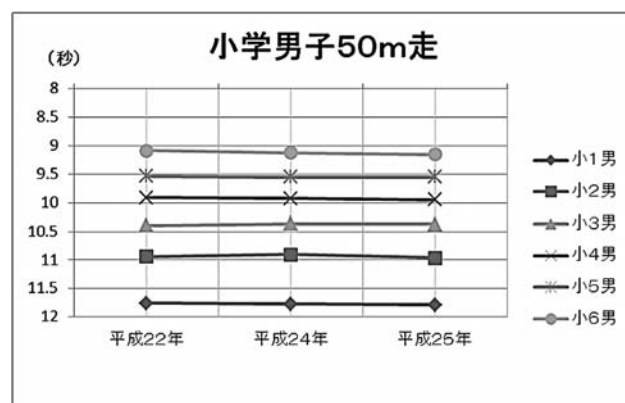
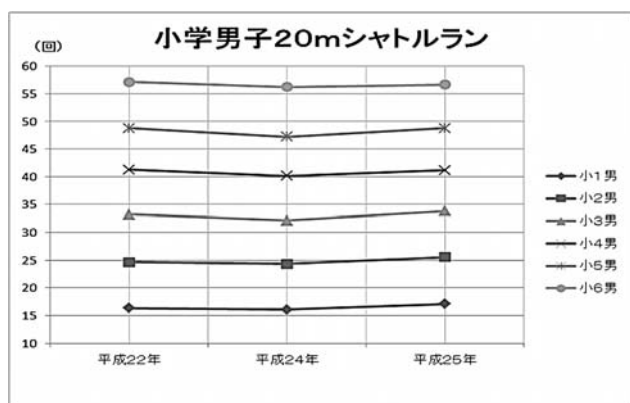
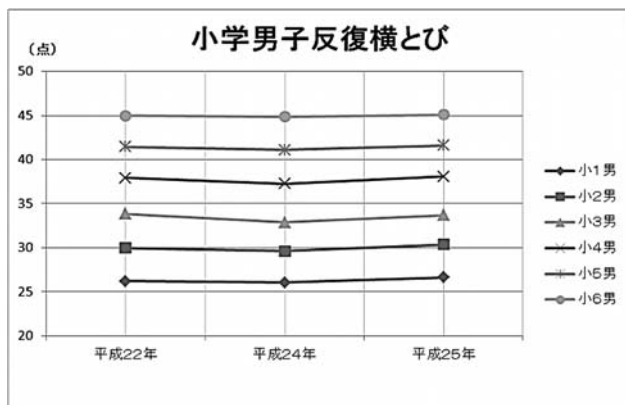
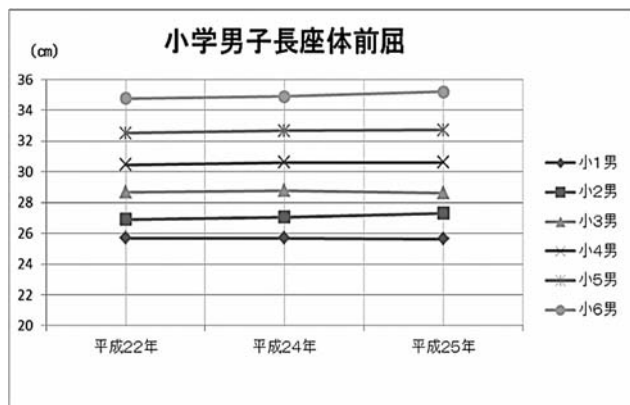
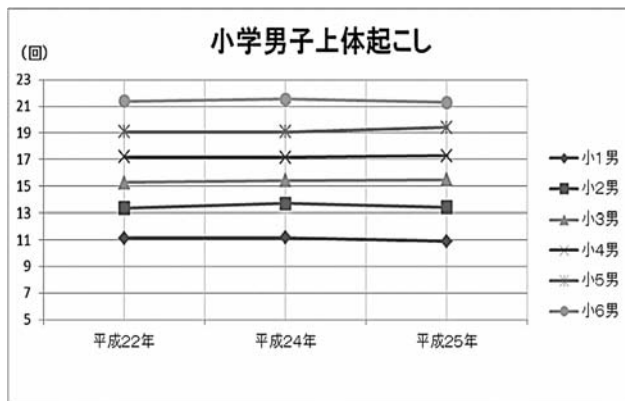
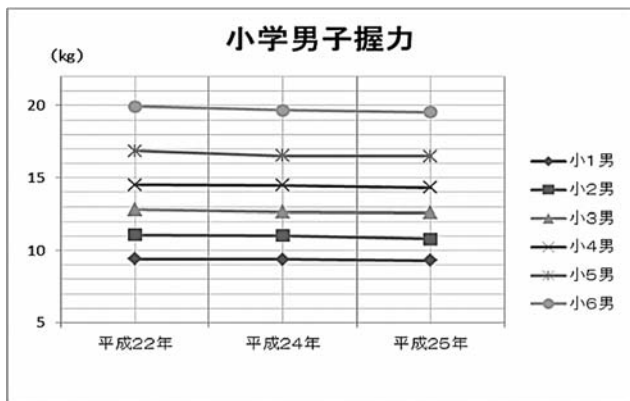
【「2」結果概要】

	低下種目の割合	向上種目の割合	低下が見られる種目	向上が見られる種目
小学校	27.1%	33.3%	・握力 ・上体起こし ・ボール投げ	・反復横とび ・20mシャトルラン
中学校	40.7%	16.7%	・握力 ・ボール投げ	・上体起こし
高等学校	53.7%	9.3%	・握力 ・20mシャトルラン ・立ち幅とび ・ボール投げ	
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校では、向上した割合が多く、特に、反復横とび、20mシャトルランで6年男子を除いてすべての学年で向上した。 ・ 中学校では、向上種目の割合よりも低下種目の割合が多くなっている。特に、握力では全学年男女で低下している。しかし、上体起こしでは向上している学年が多い。 ・ 高等学校では、向上種目の割合よりも低下種目の割合が多くなっている。特に、握力、立ち幅とびで全学年男女で低下している。 			

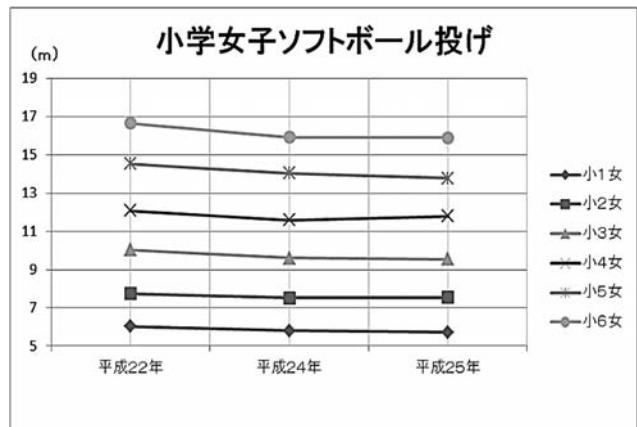
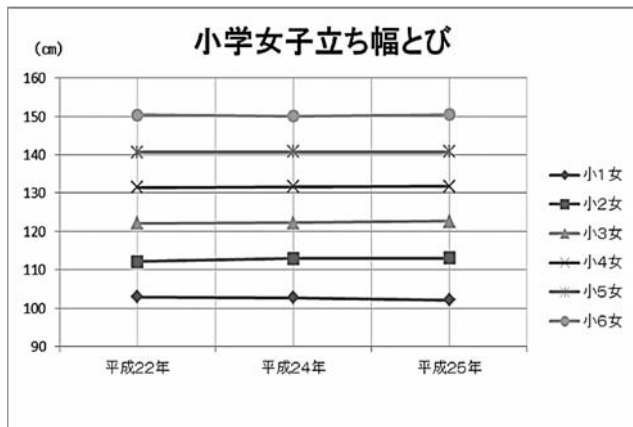
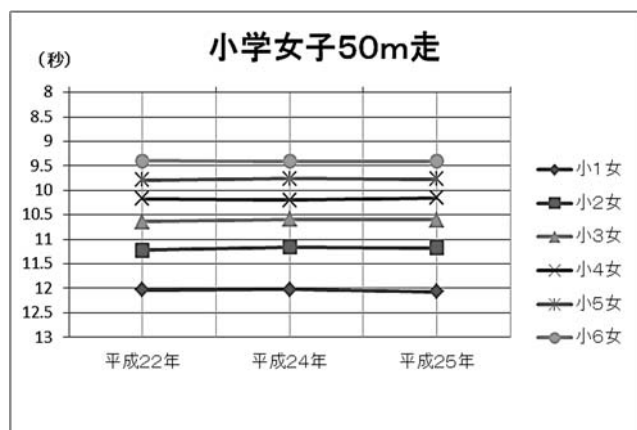
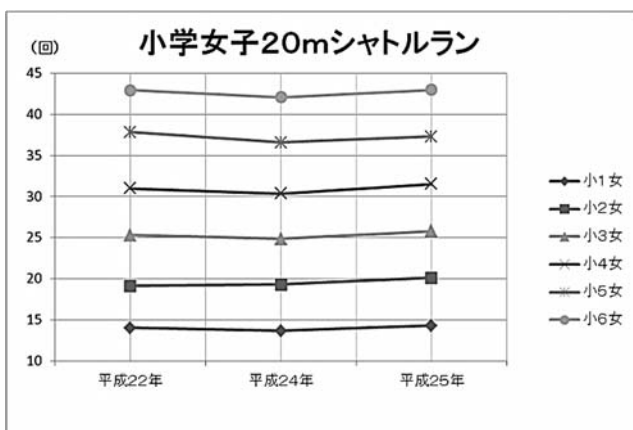
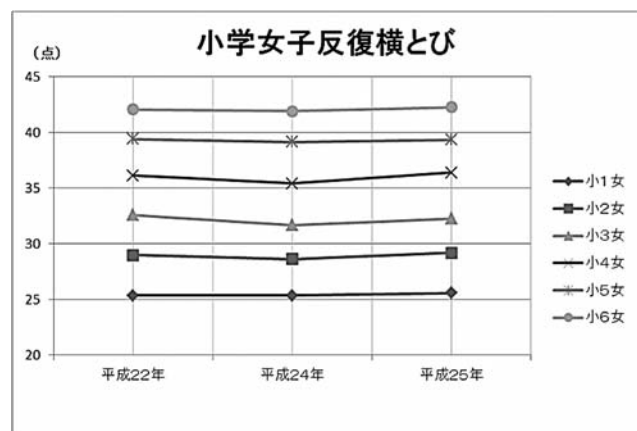
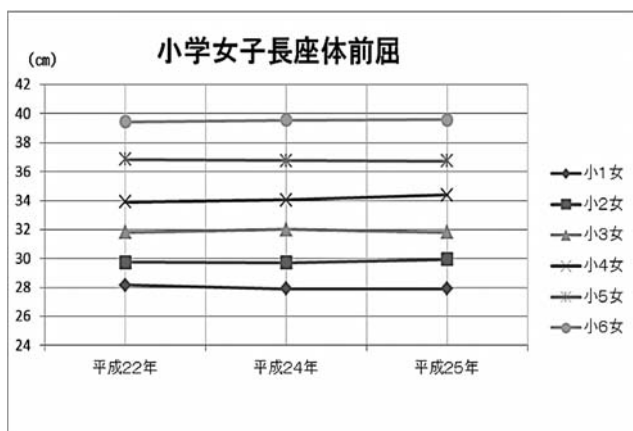
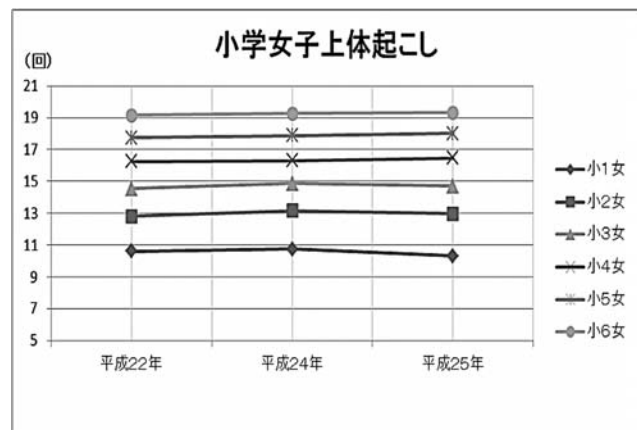
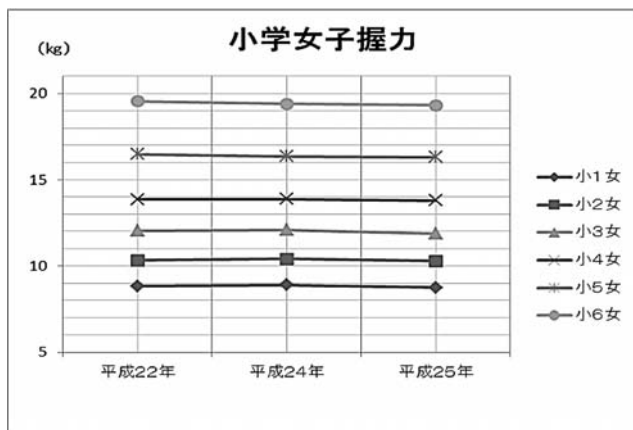
3 校種別，測定項目別の3カ年の経年結果比較

平成22年度，平成24年度，平成25年度の3カ年における体力・運動能力調査について，校種別，測定項目別に，結果の推移を表すグラフにまとめた。(平成23年度は調査を実施していない地域もあり，参考値としていることから除いている)

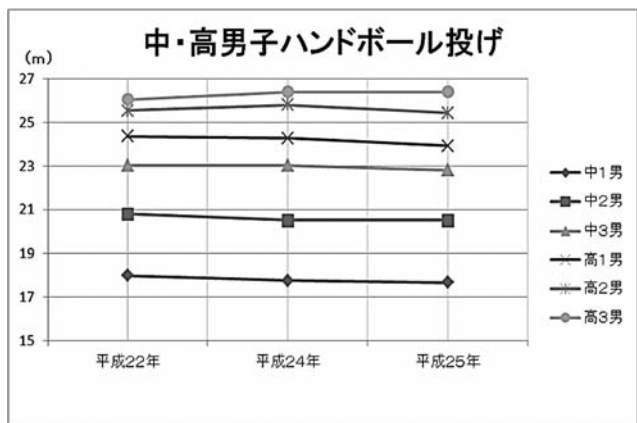
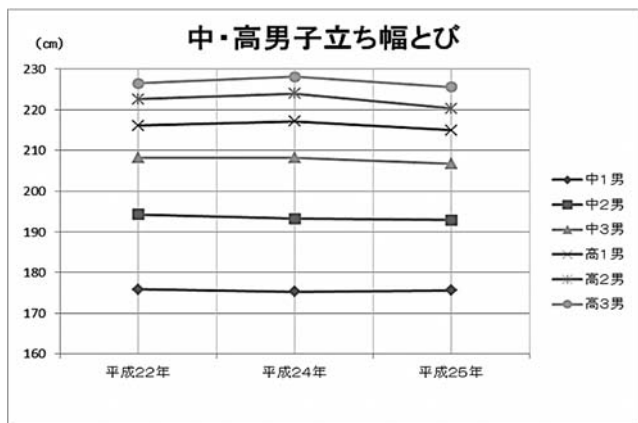
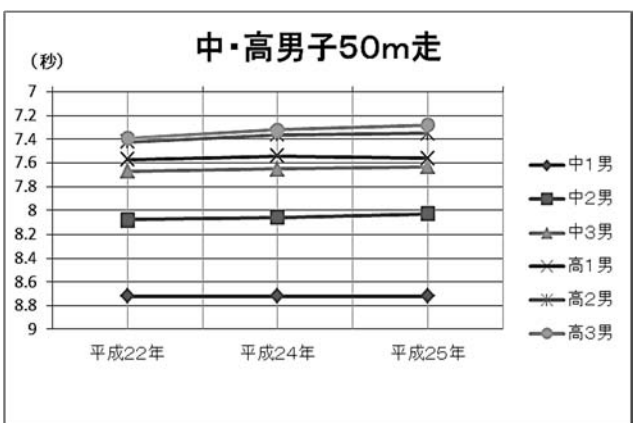
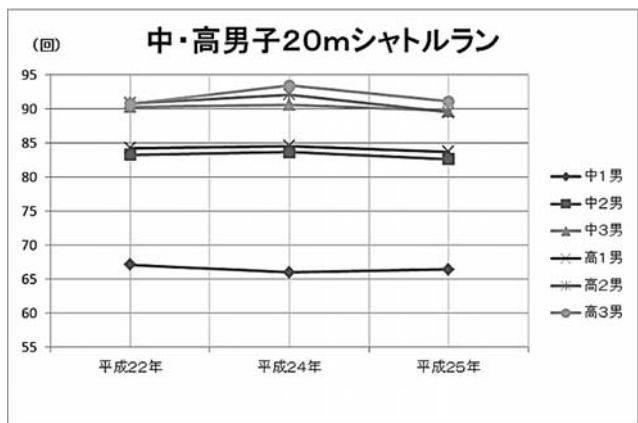
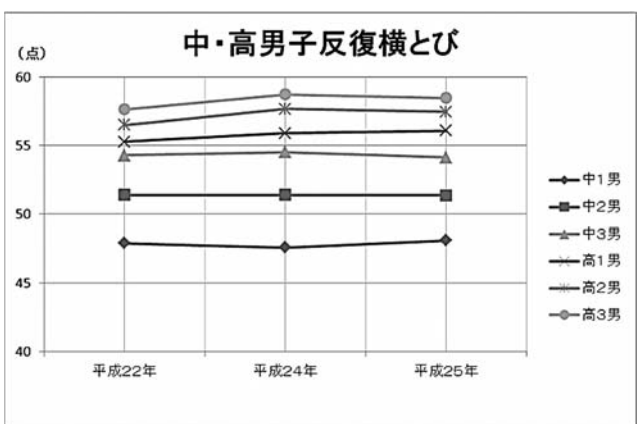
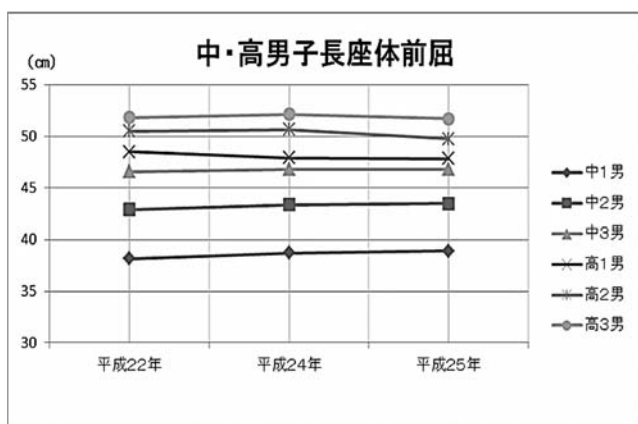
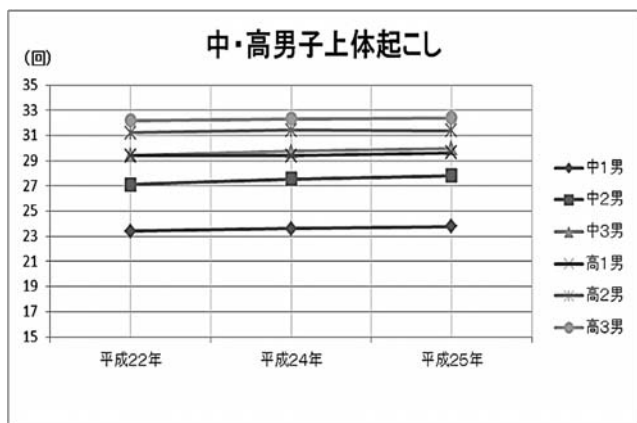
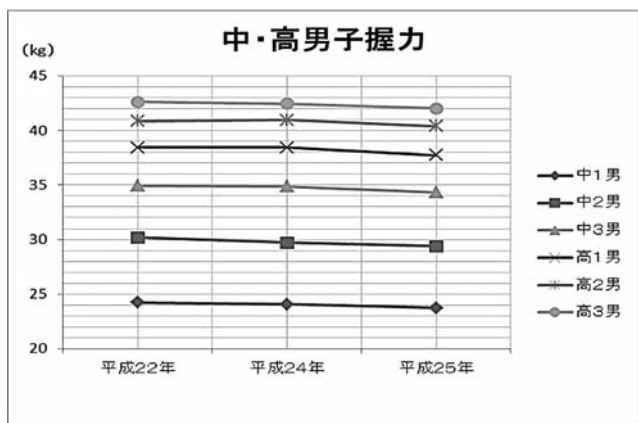
小学校男子



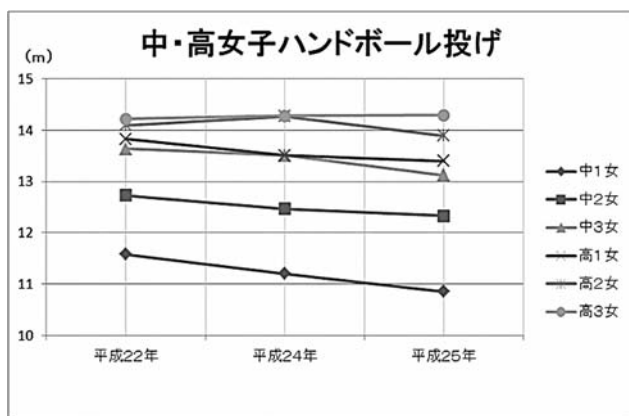
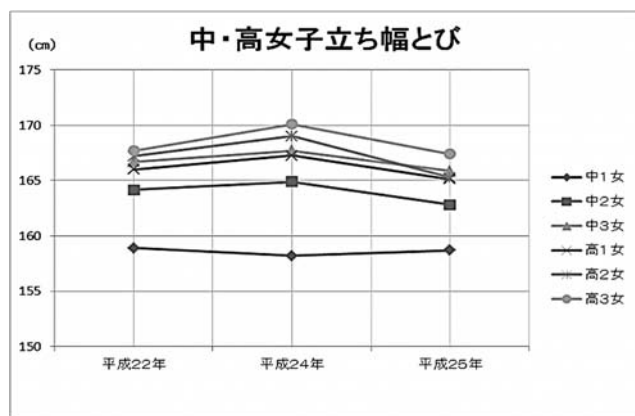
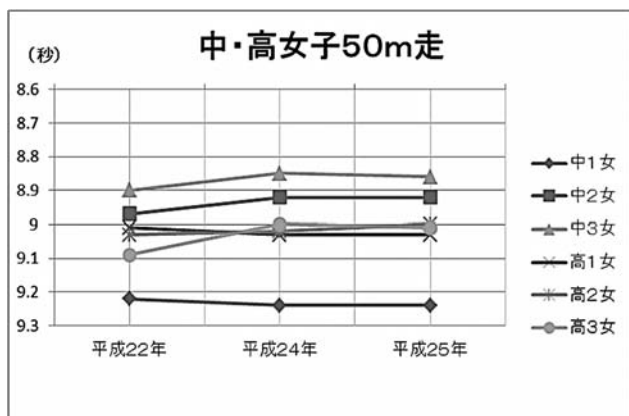
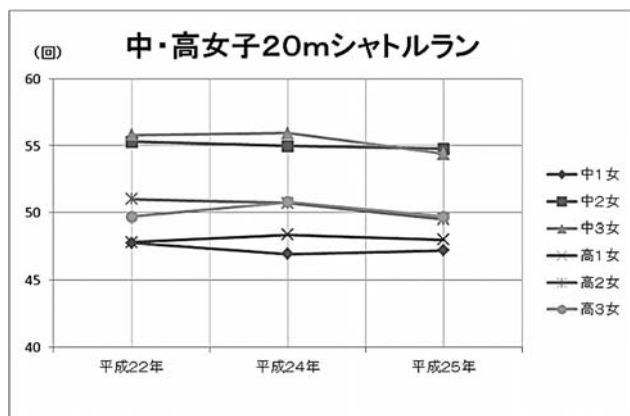
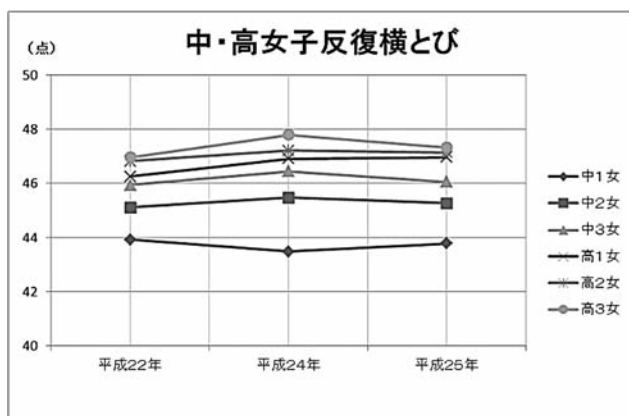
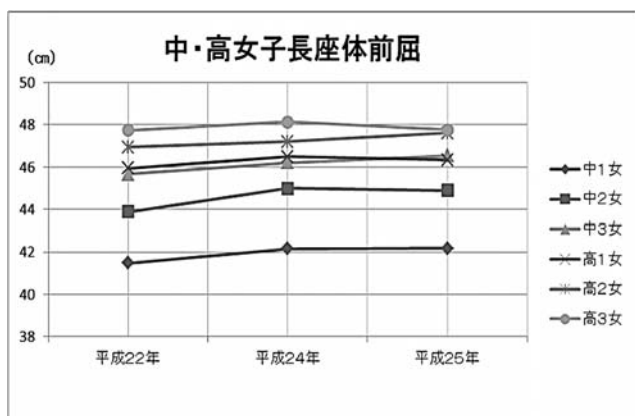
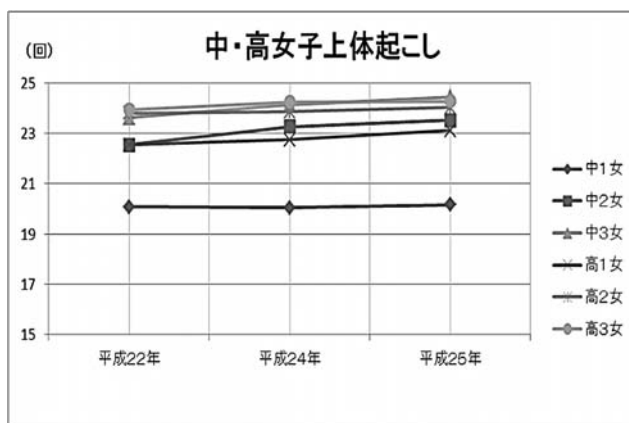
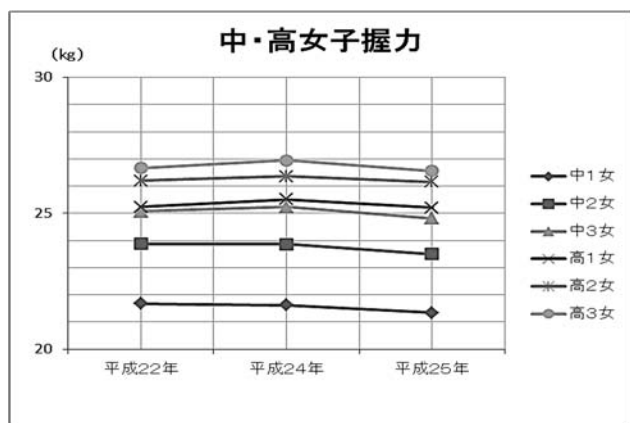
小学校女子



中・高男子



中・高女子



【「3」結果概要】

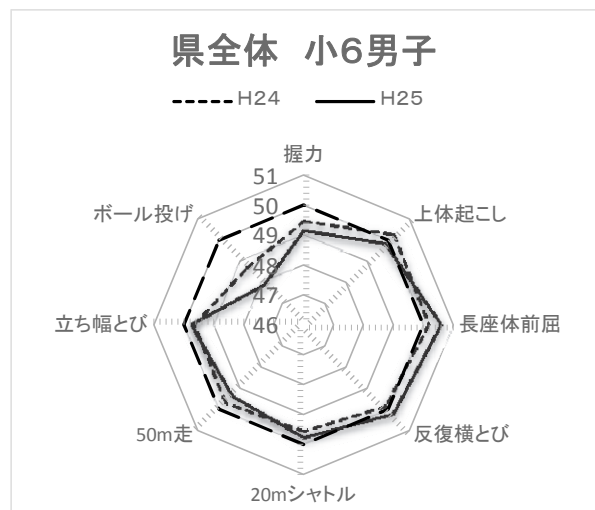
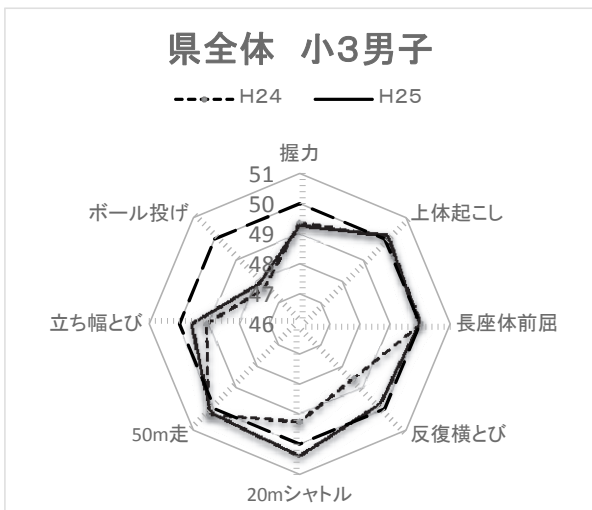
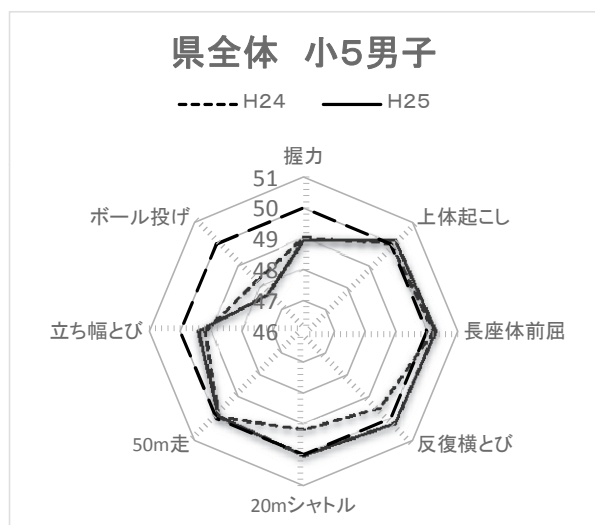
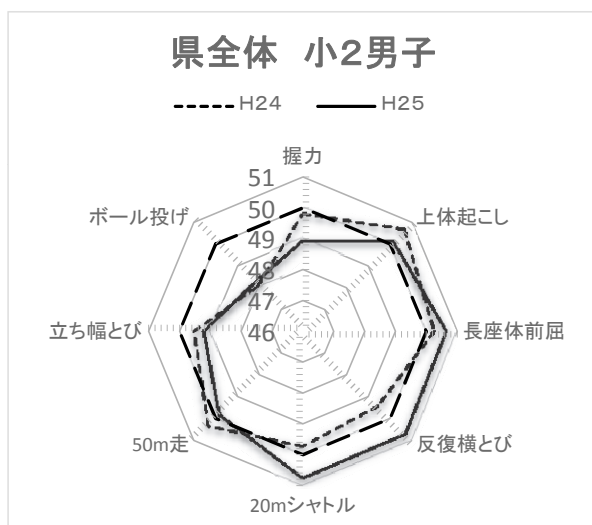
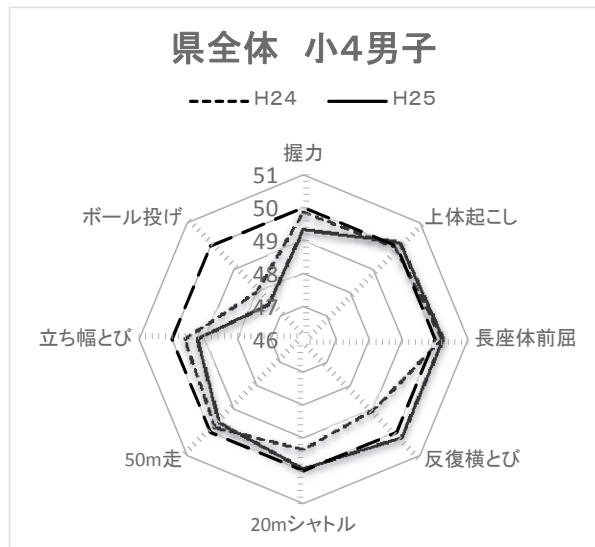
学年	概 要
小学校男子	<ul style="list-style-type: none"> ・反復横とびと20mシャトルランは学年によって平成24年度にやや低下したが、平成25年度にかけて向上した。 ・長座体前屈は平成22年度より継続して向上している学年が多い。 ・握力、ボール投げは各学年とも低下傾向である。
小学校女子	<ul style="list-style-type: none"> ・反復横とびと20mシャトルランは学年によって平成24年度にやや低下したが、平成25年度にかけて向上した。 ・長座体前屈は平成22年度より継続して向上している学年が多い。 ・ボール投げは各学年とも低下傾向であるが、特に高学年での低下がみられる。
中学校男子	<ul style="list-style-type: none"> ・上体起こし、長座体前屈、50m走は平成22年度より継続して向上している。 ・握力は低下傾向にある。
中学校女子	<ul style="list-style-type: none"> ・上体起こしは平成22年度より継続して向上している。 ・ボール投げは3年間の推移をみても低下している。
高校男子	<ul style="list-style-type: none"> ・上体起こし、反復横とび、50m走は継続して向上している。 ・握力においてやや低下がみられる。
高校女子	<ul style="list-style-type: none"> ・上体起こしは、平成22年度より継続して向上している。 ・反復横とびは、高1・2年で向上している。 ・20mシャトルランにおいてやや低下がみられる。

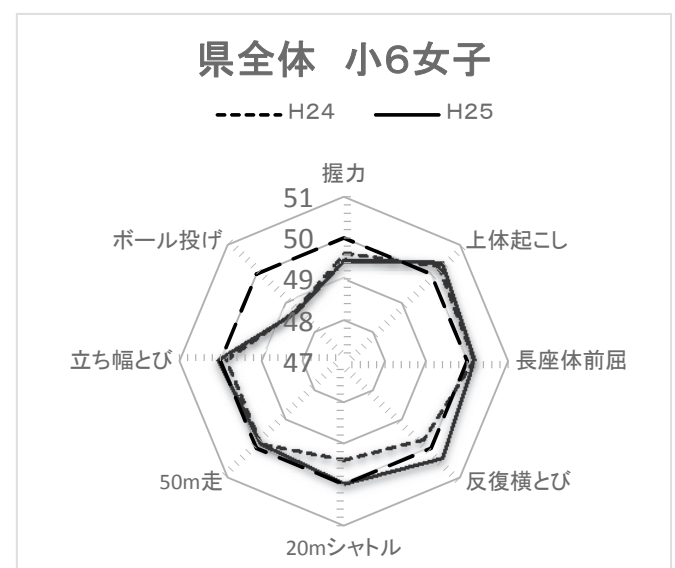
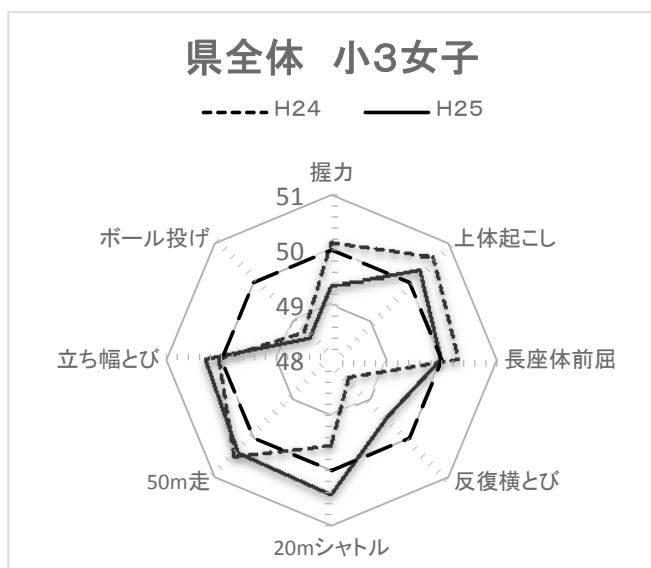
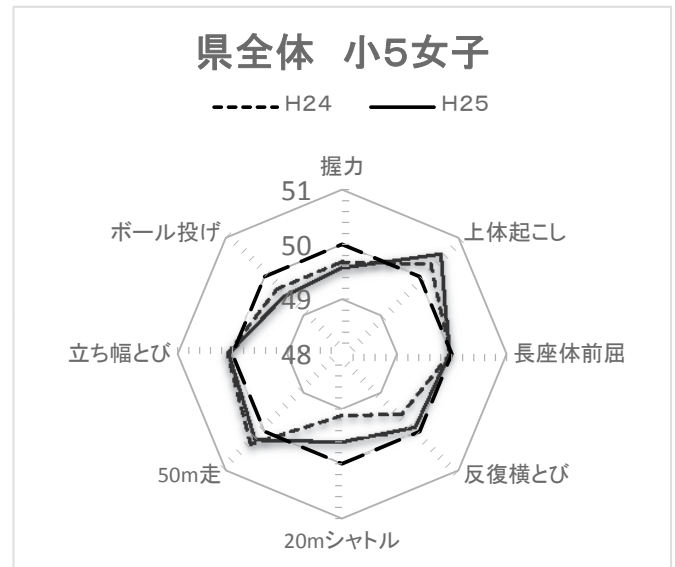
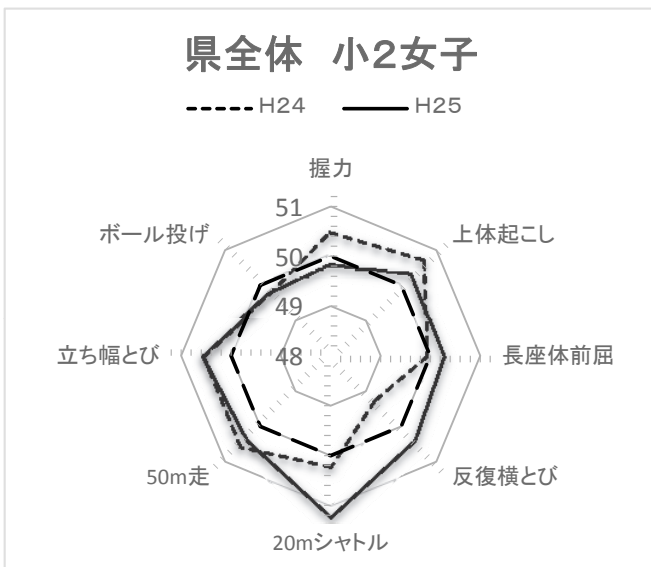
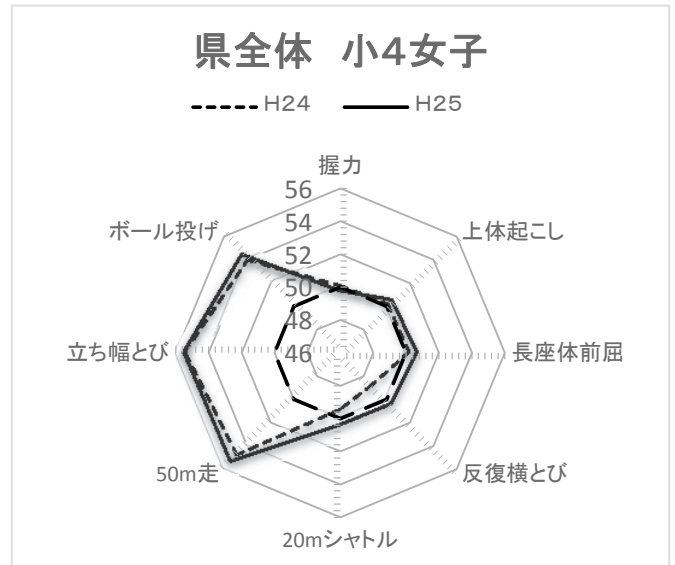
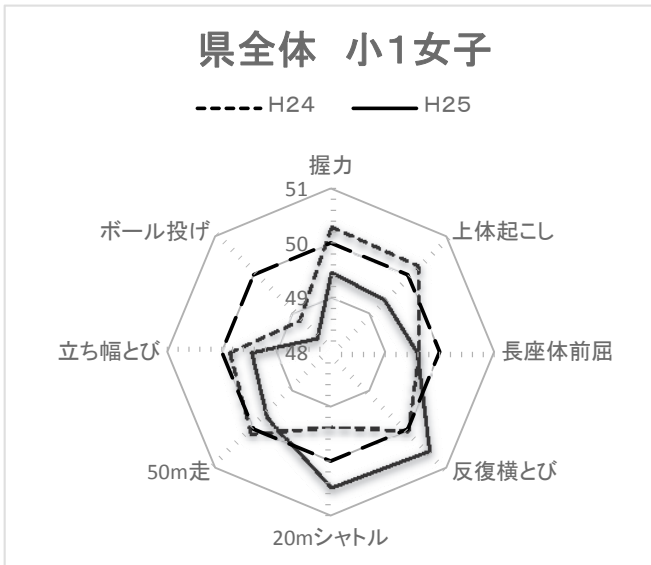
4 平成25年度・平成24年度と平成22年度(震災前)の県全体及び管内毎の結果比較

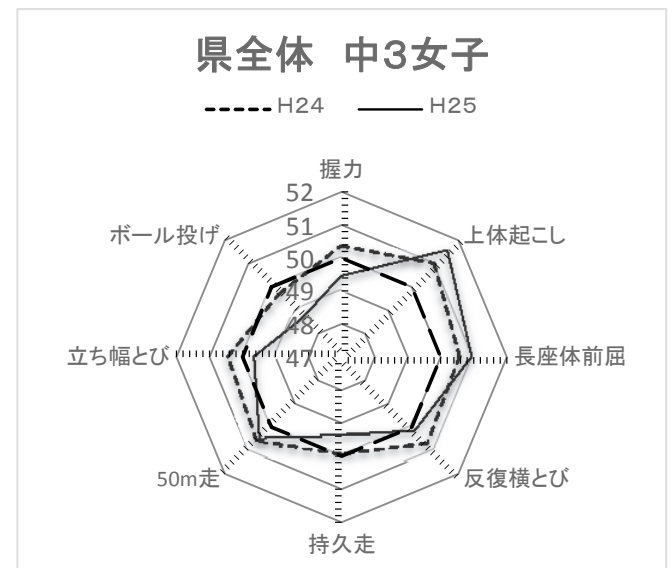
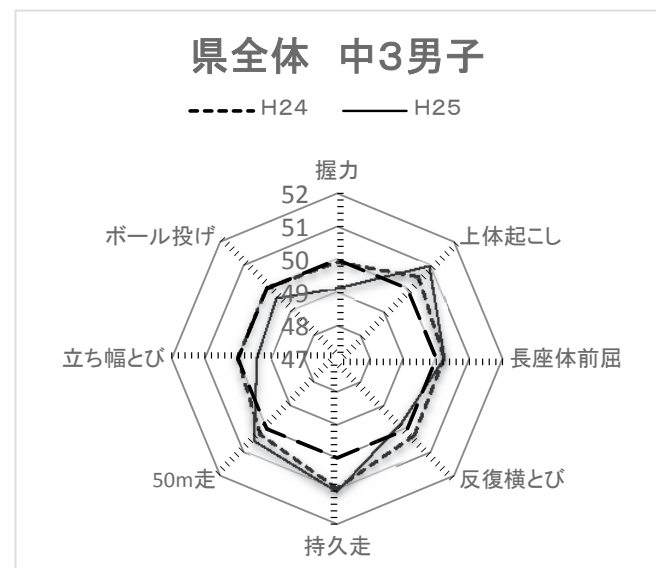
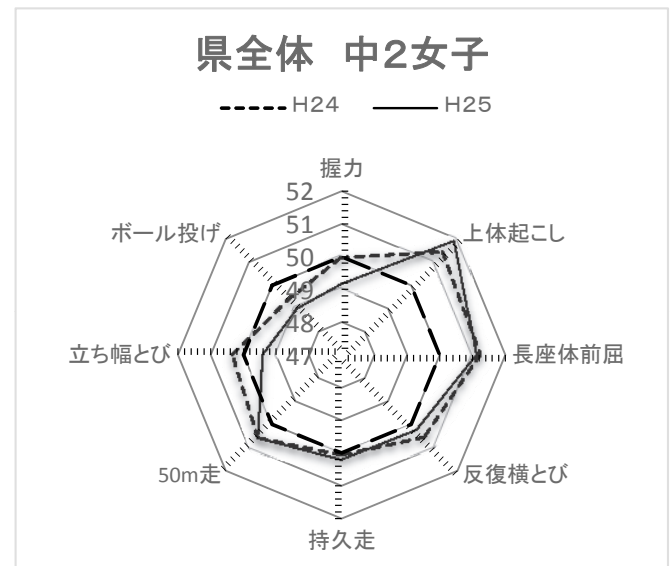
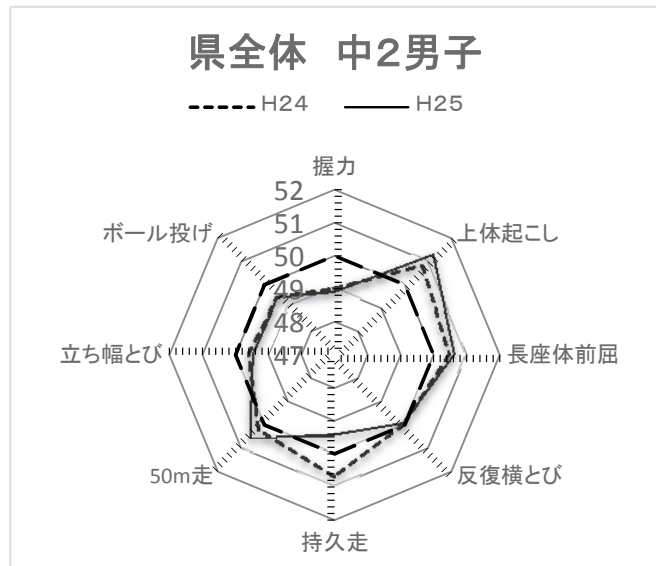
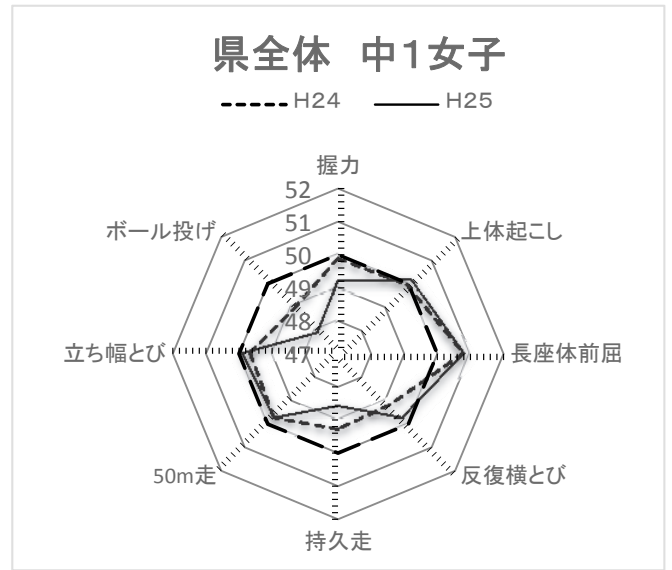
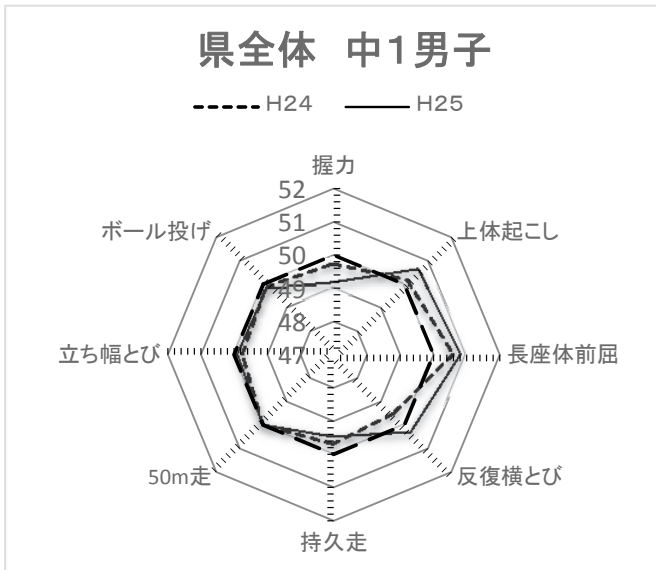
平成22年度，平成24年度，平成25年度の3カ年における体力・運動能力調査について，県全体及び県内各圏域における状況を見るため，教育事務所・地域事務所の管内別，校種別に，結果の推移を表すレーダーチャートのグラフにまとめた。なお，各グラフとも，平成22年度における結果を50とし，以降2カ年の結果は平成22年度との比較による相対値で表している。

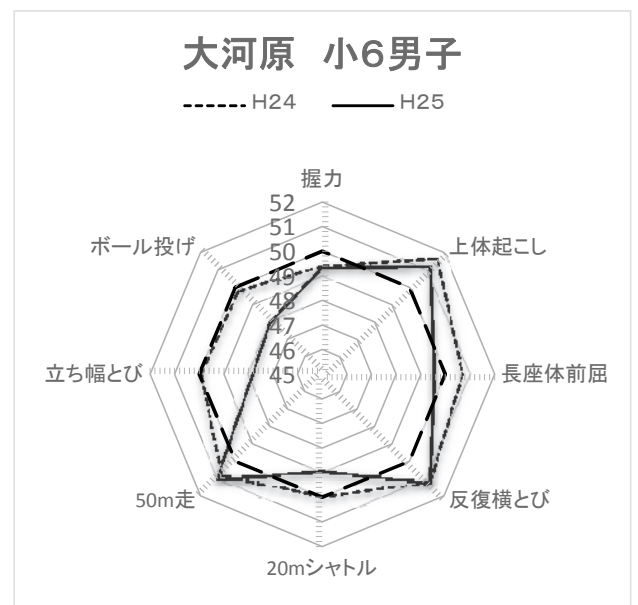
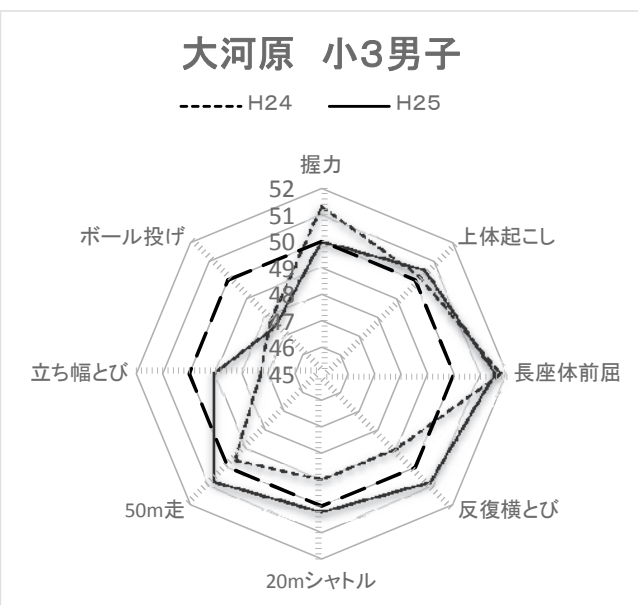
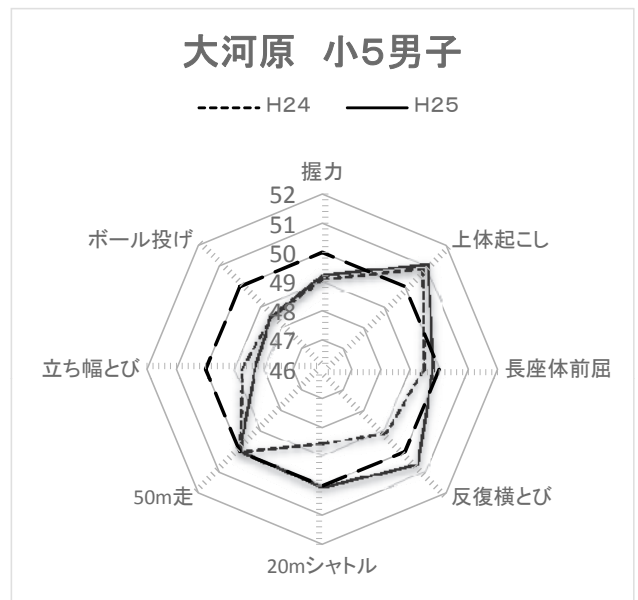
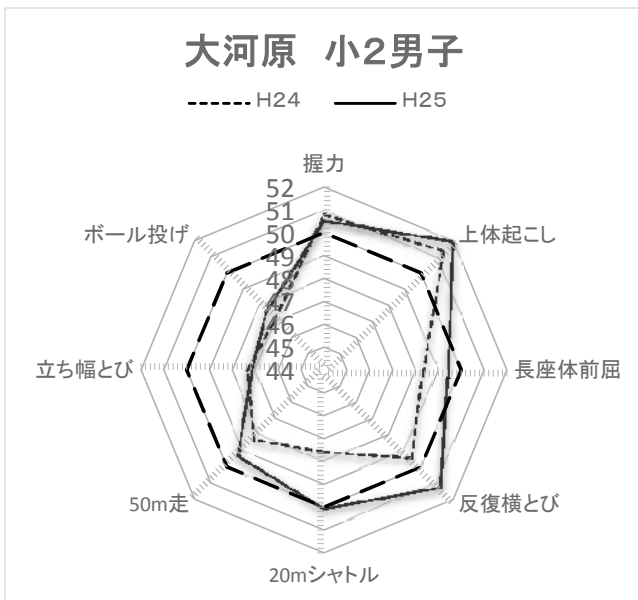
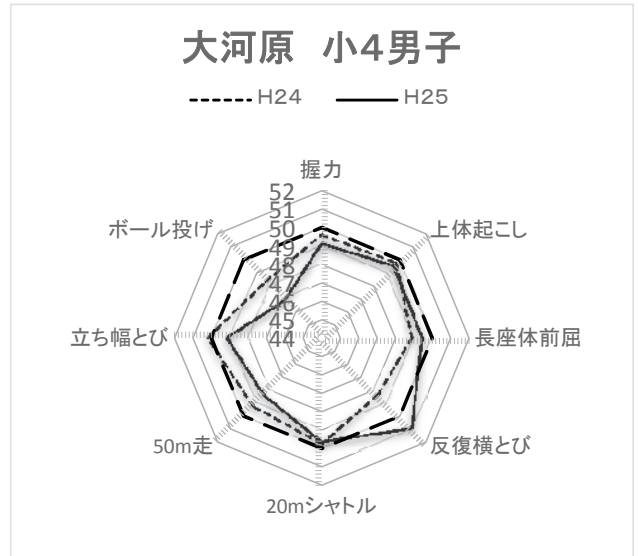
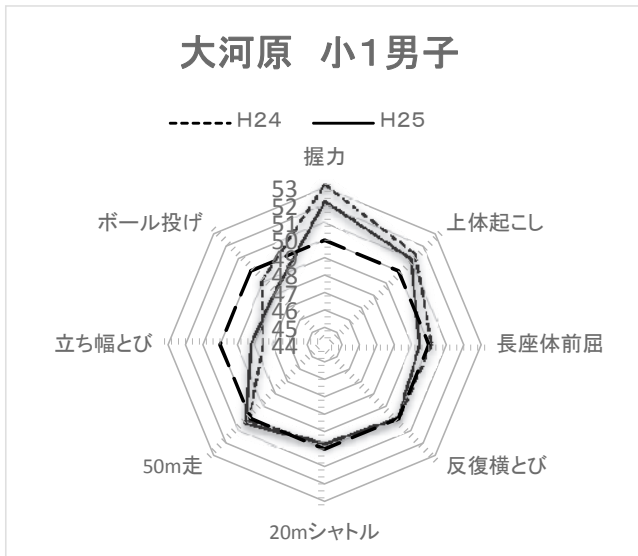
平成22年度(震災前)との比較【県内】

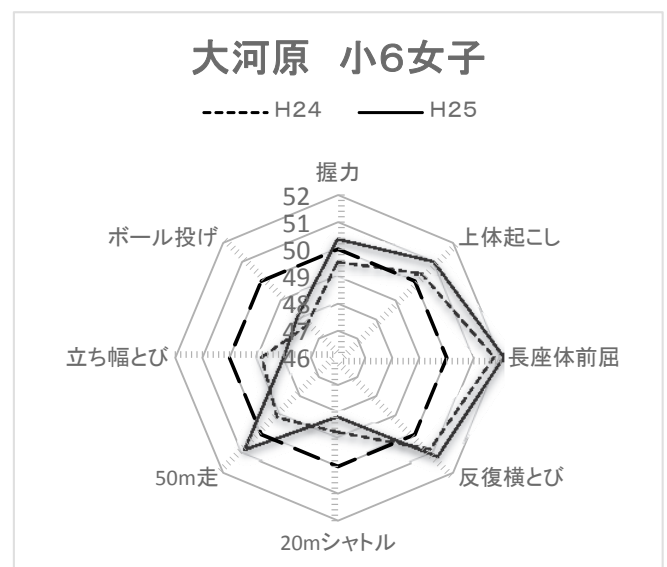
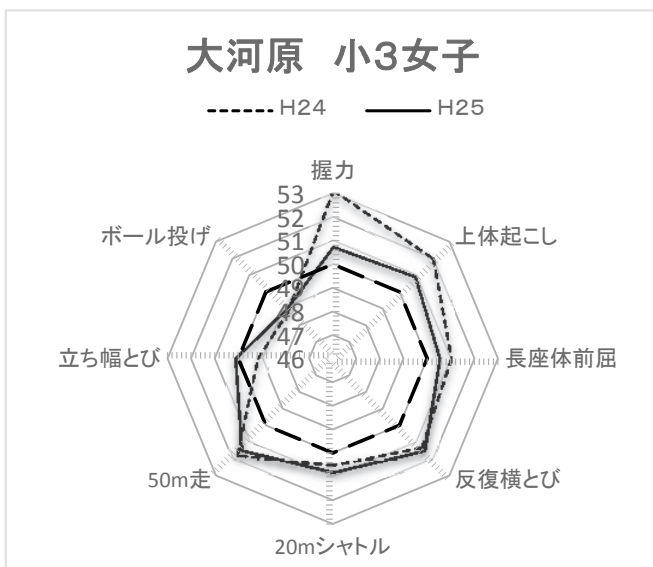
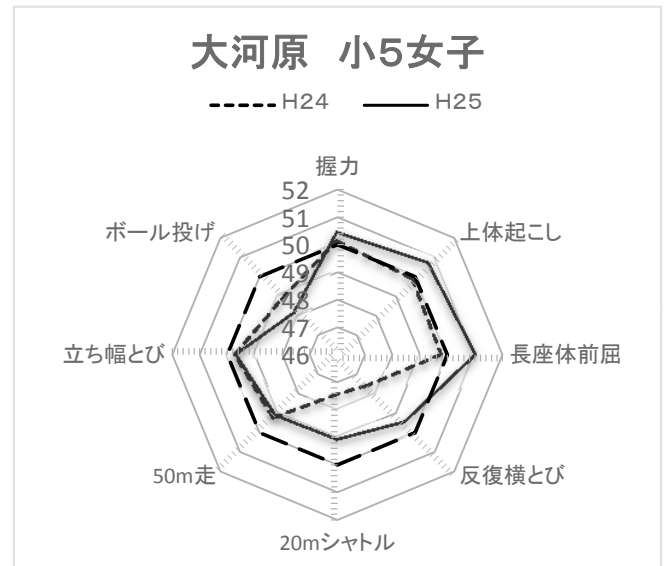
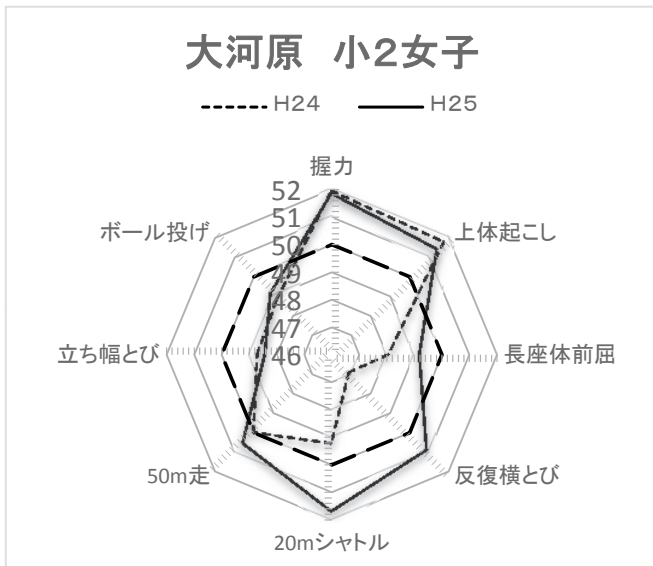
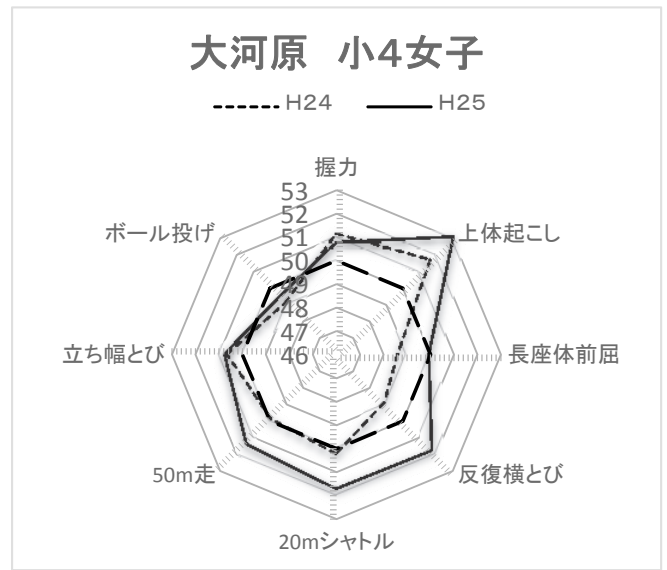
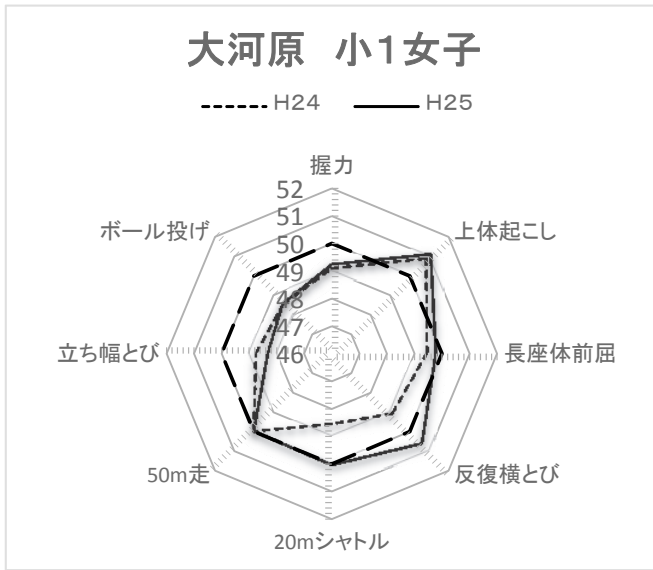
(Tスコアによる…50のラインがH22)





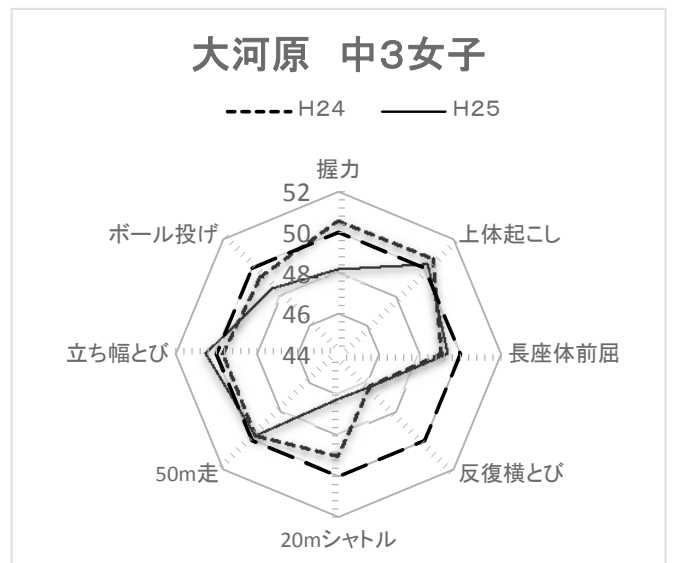
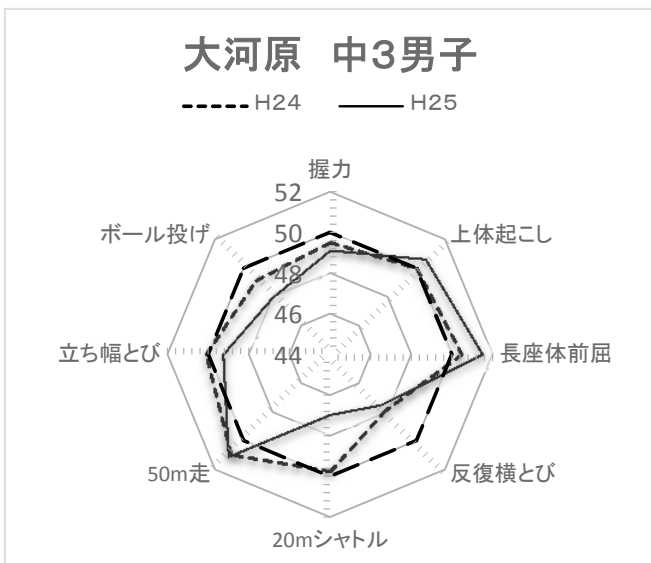
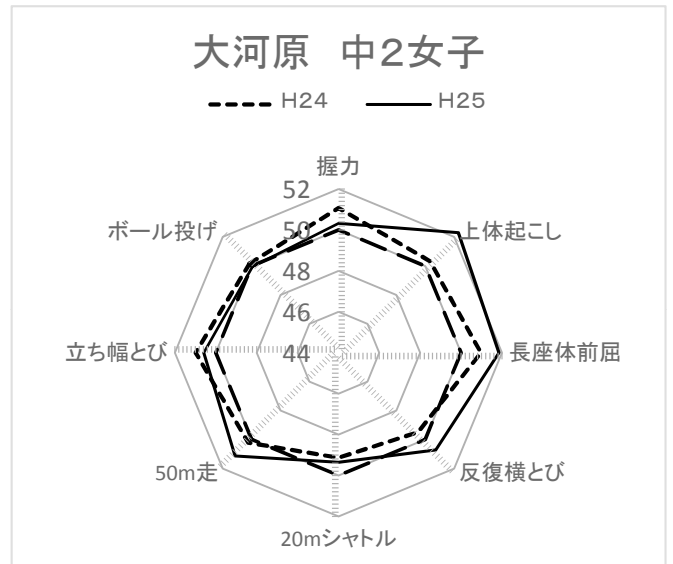
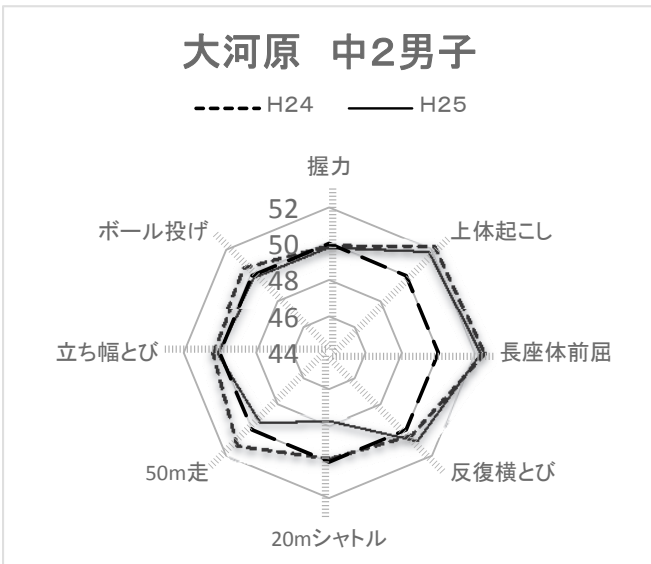
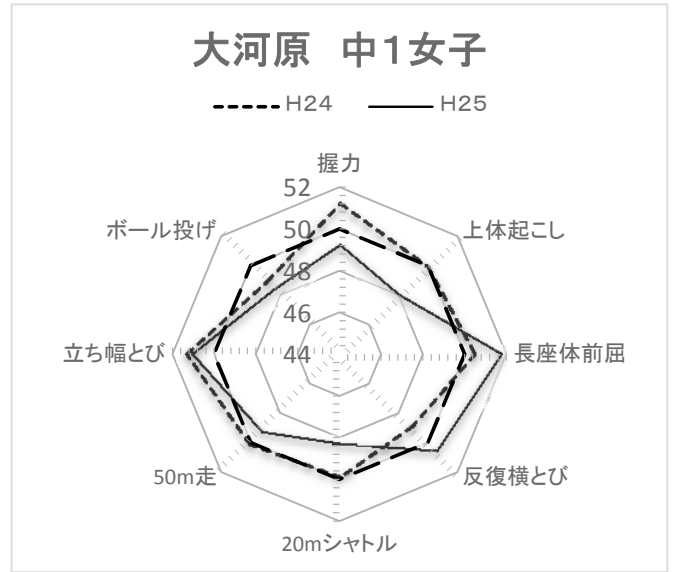
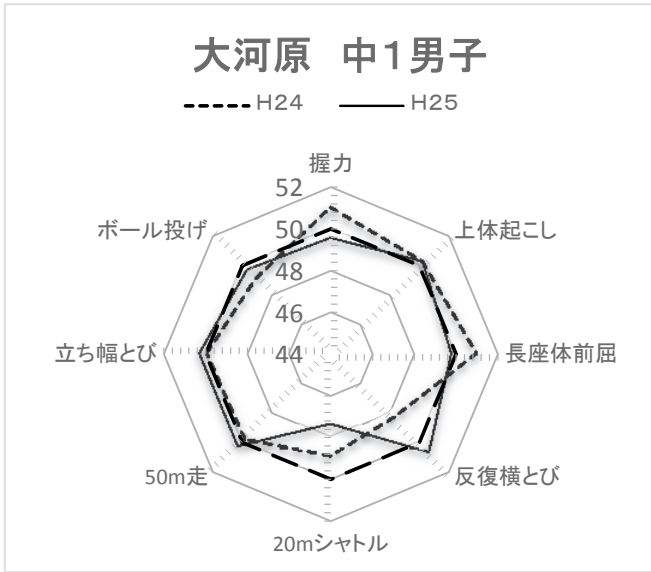


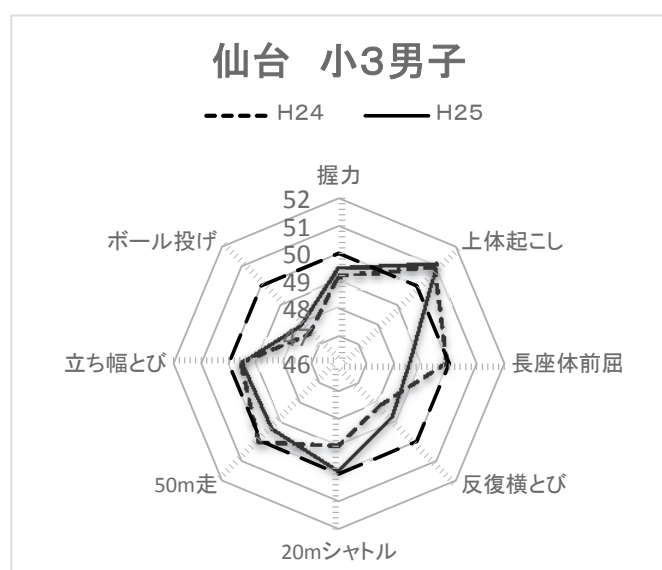
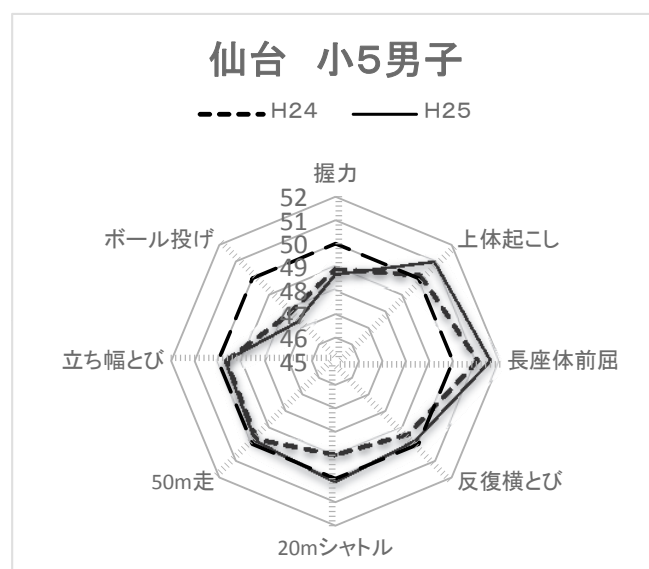
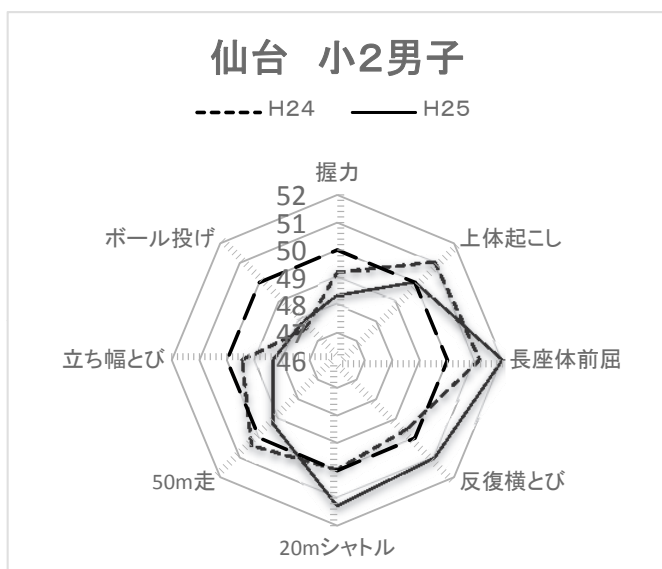
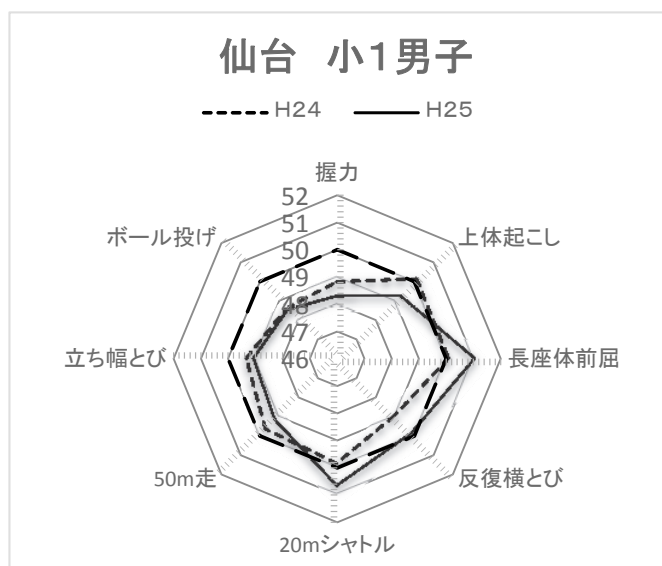




平成22年度(震災前)との比較【大河原管内】

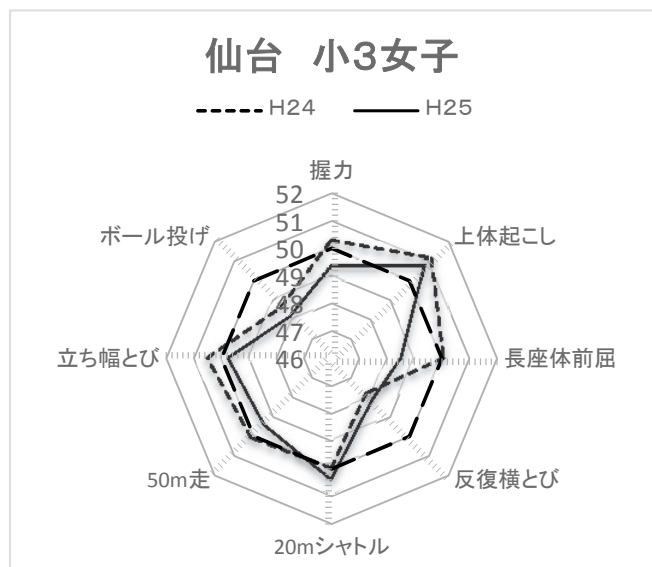
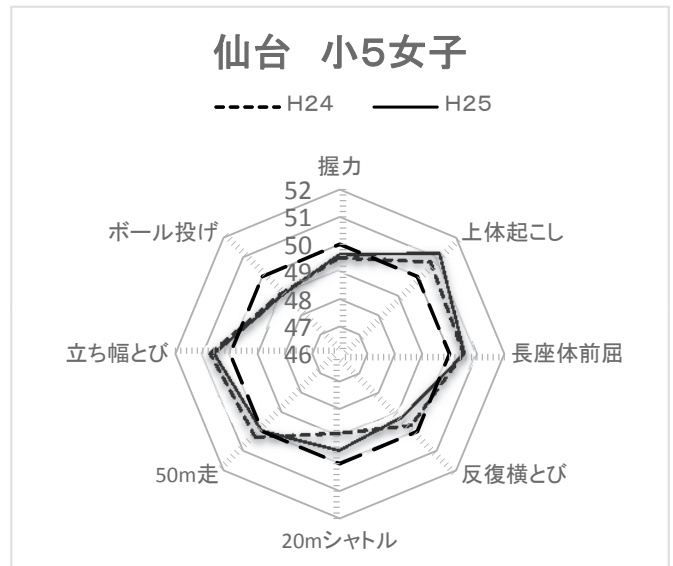
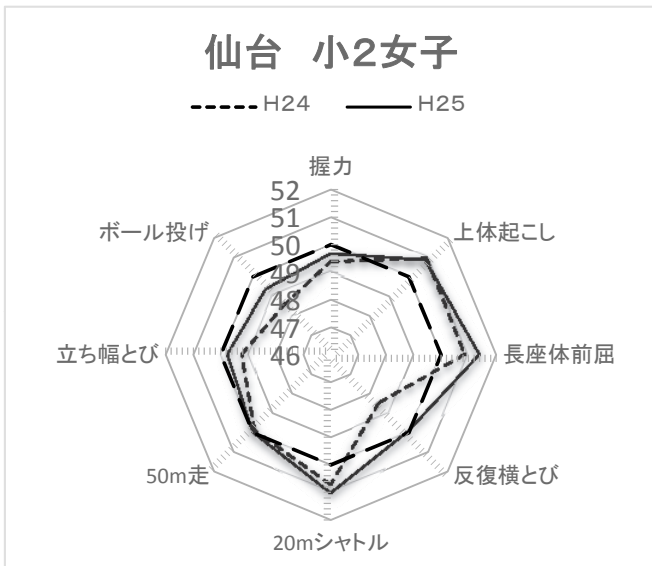
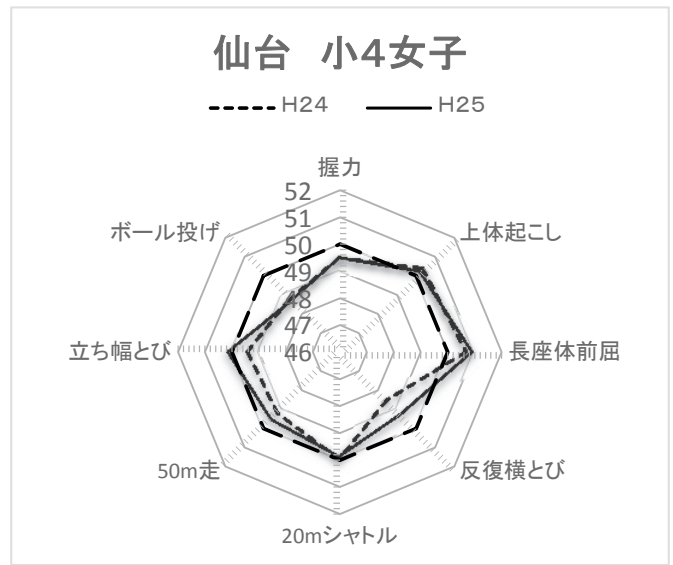
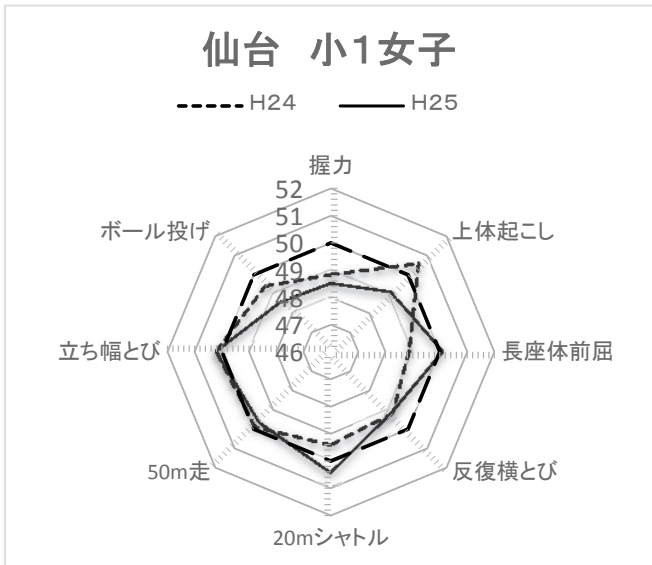
(Tスコアによる…50のラインがH22)

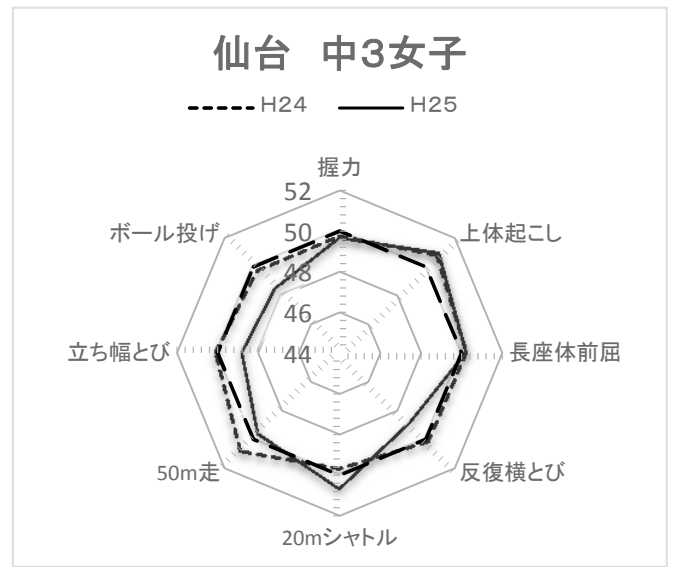
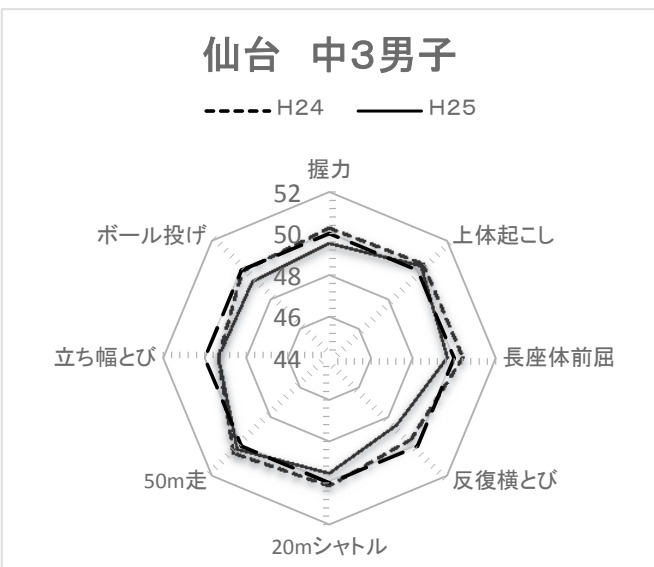
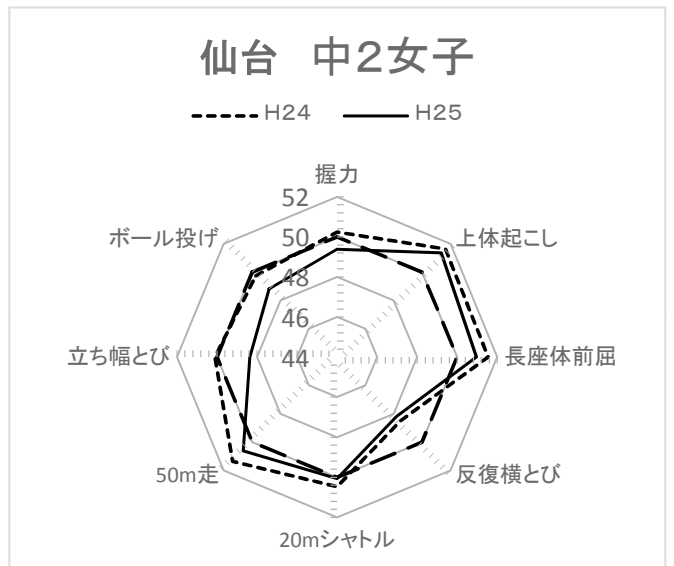
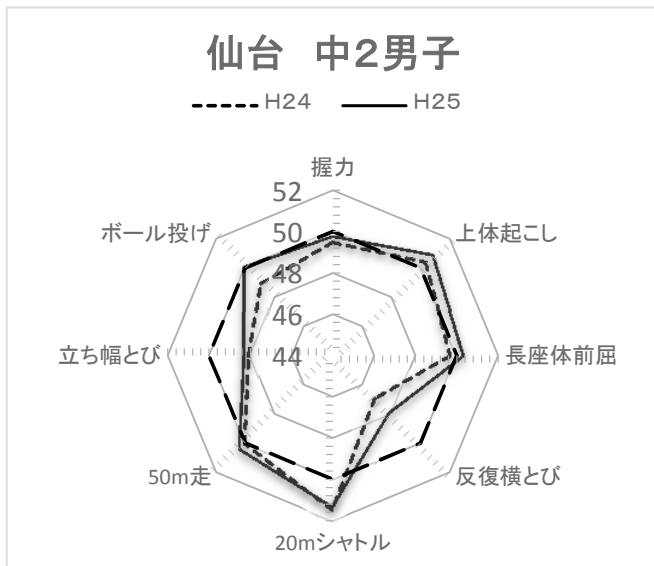
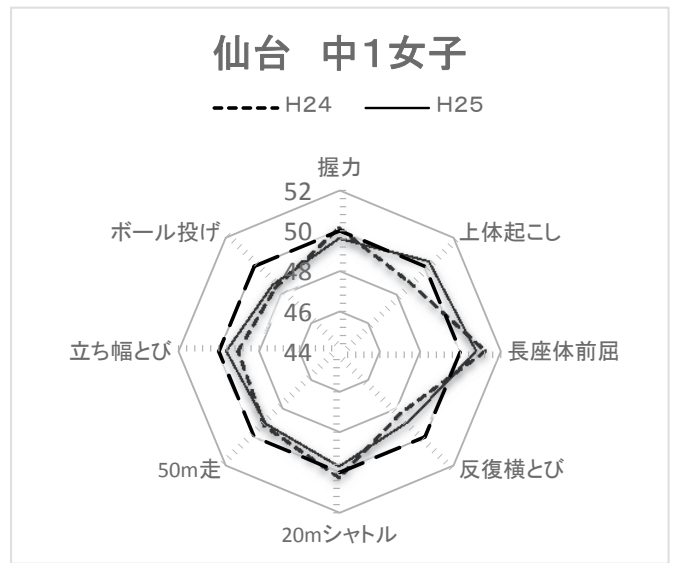
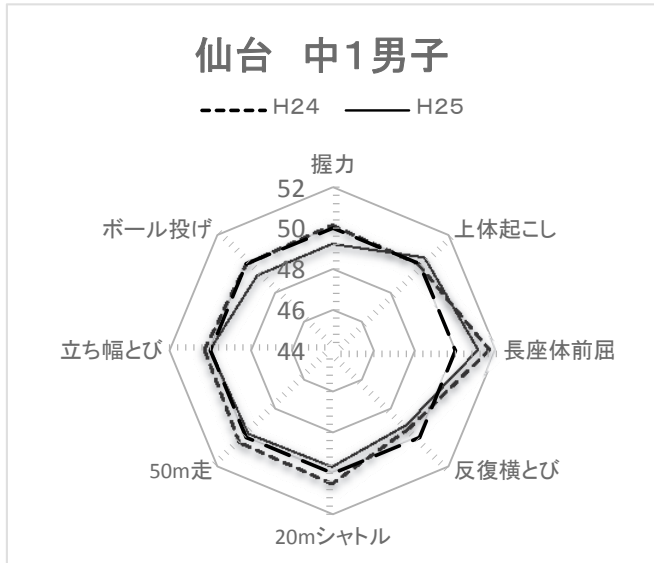


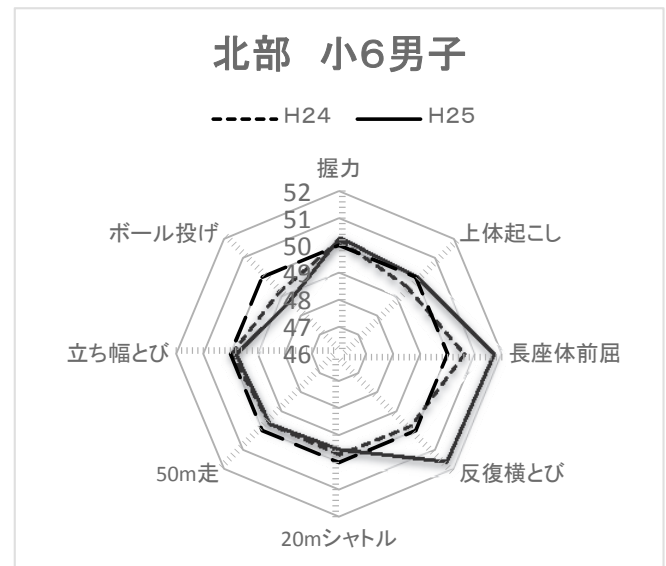
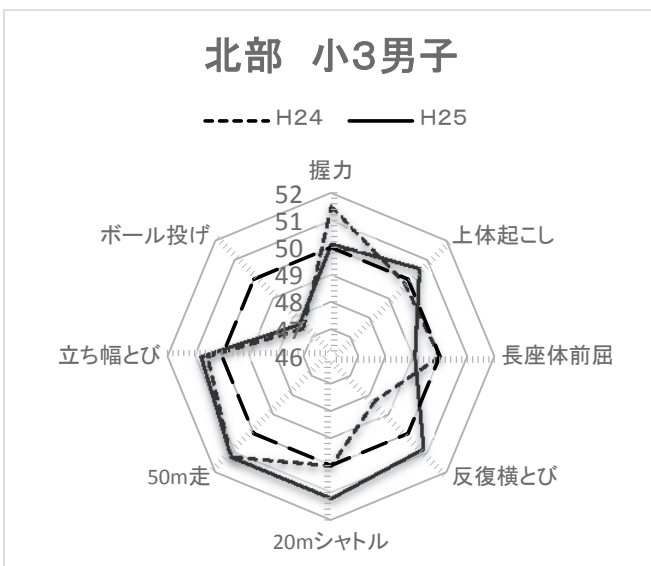
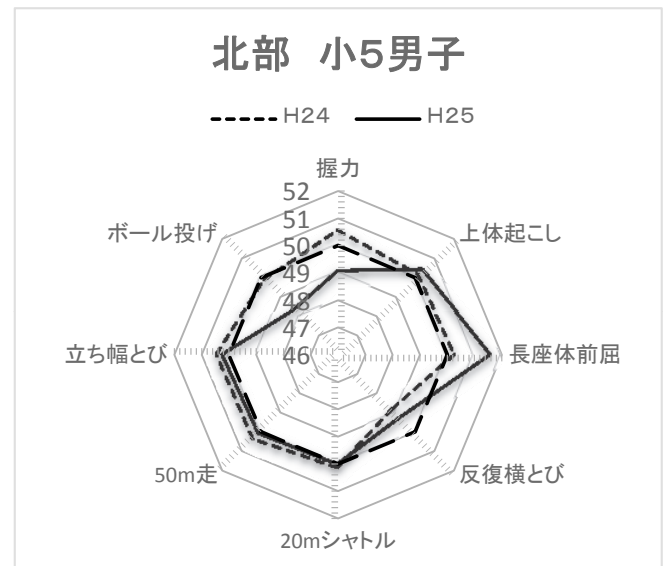
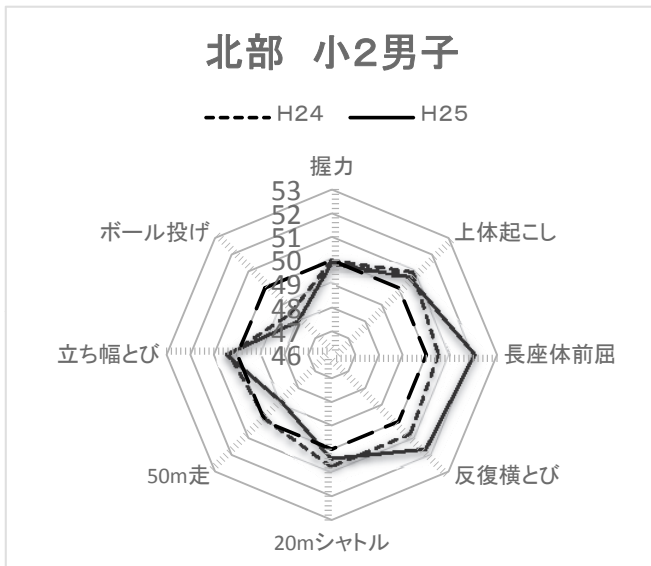
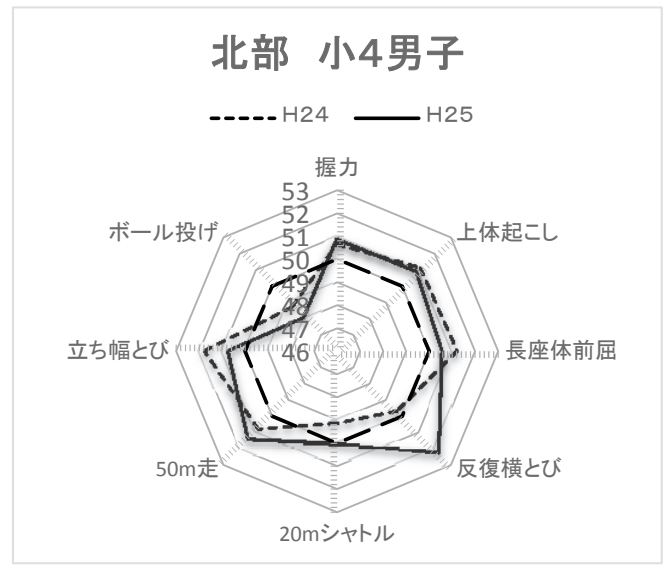
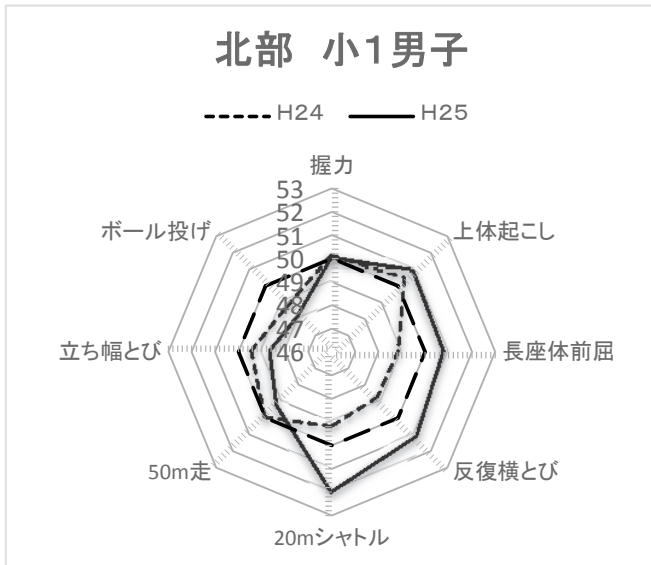


平成22年度(震災前)との比較【仙台管内】

(Tスコアによる…50のラインがH22)

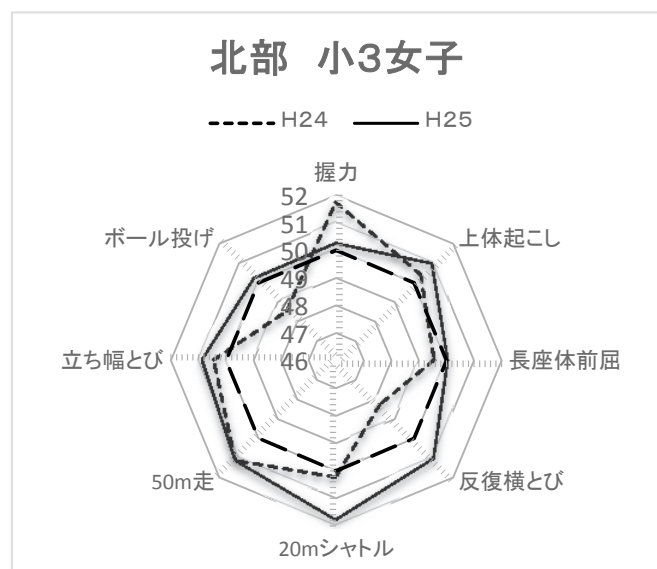
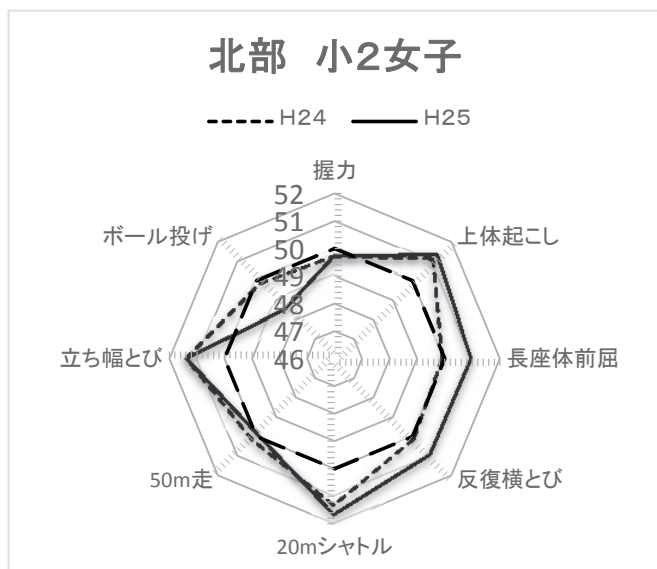
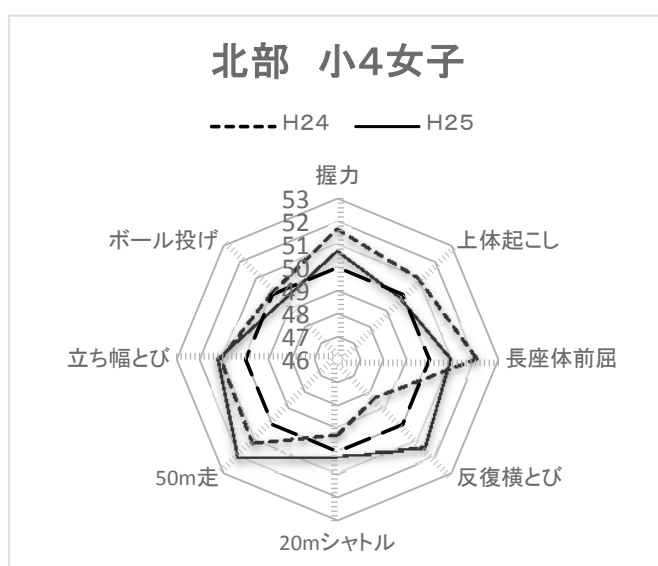
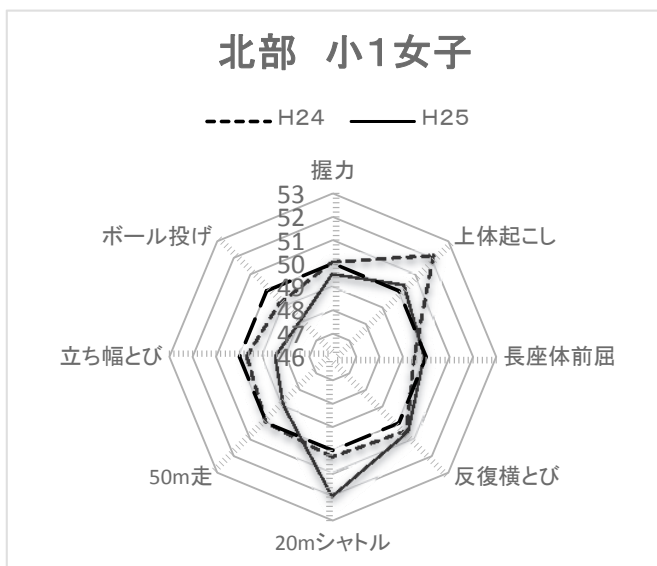




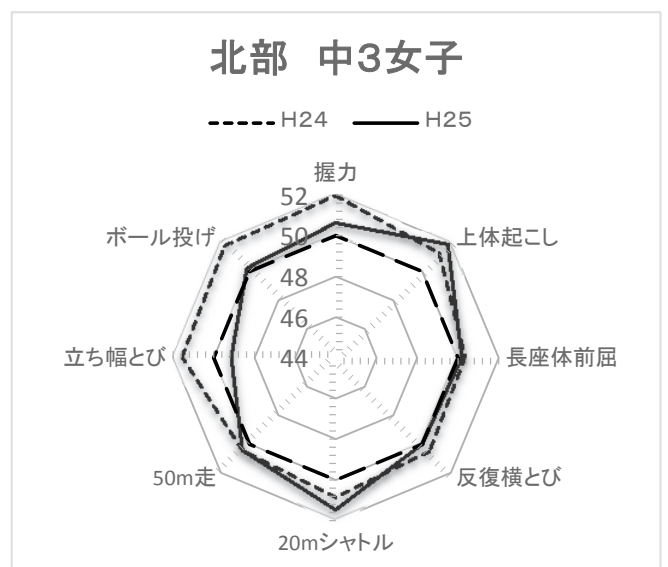
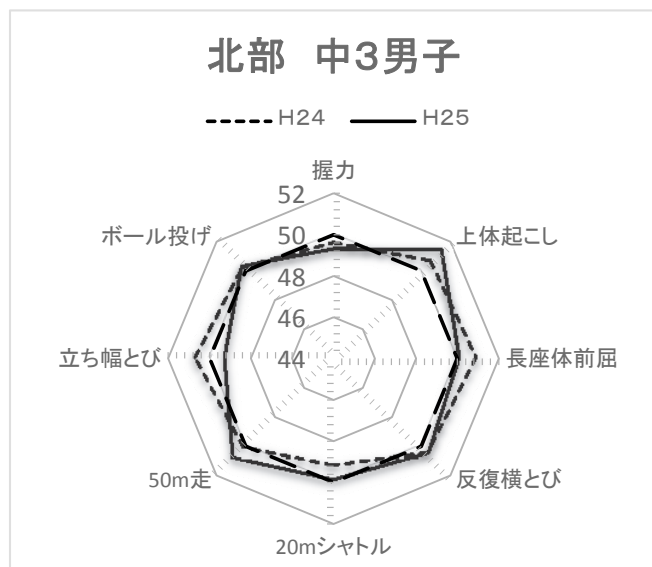
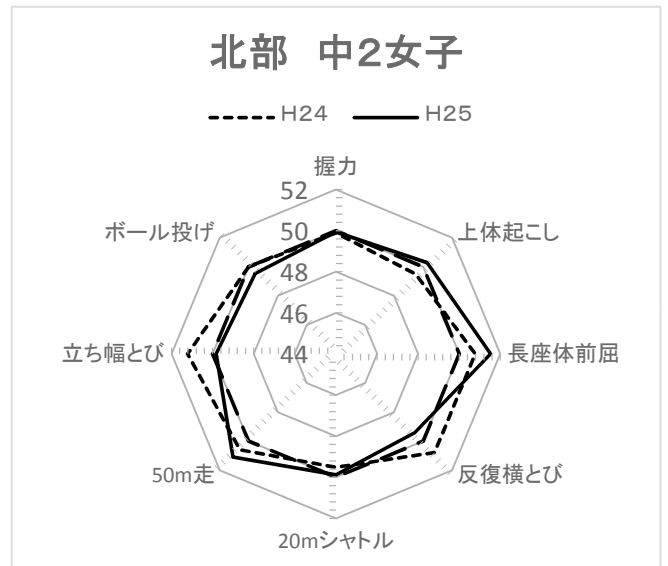
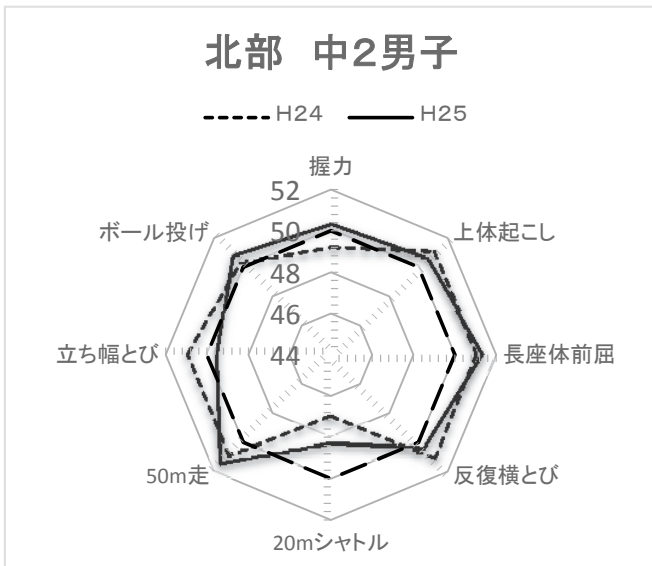
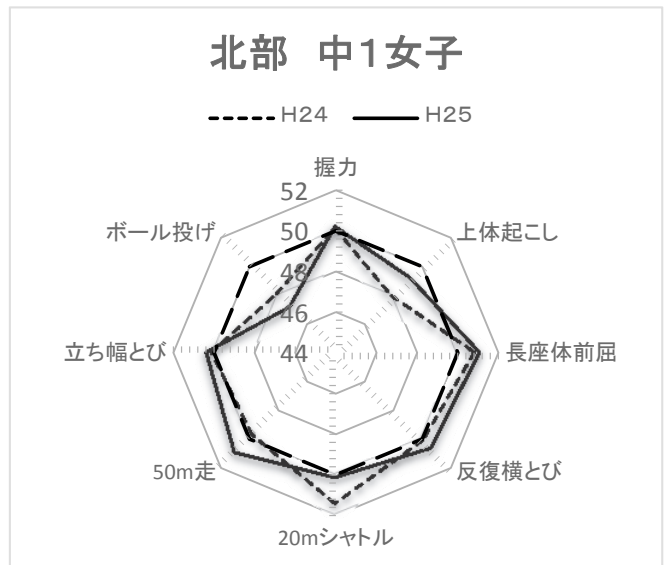
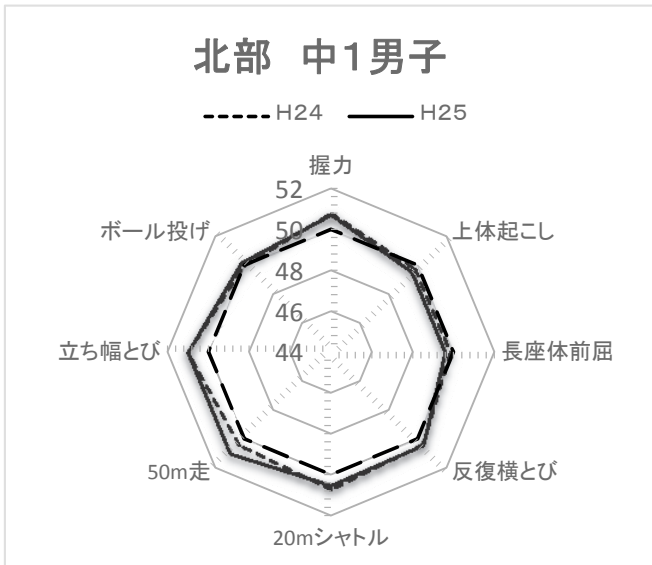


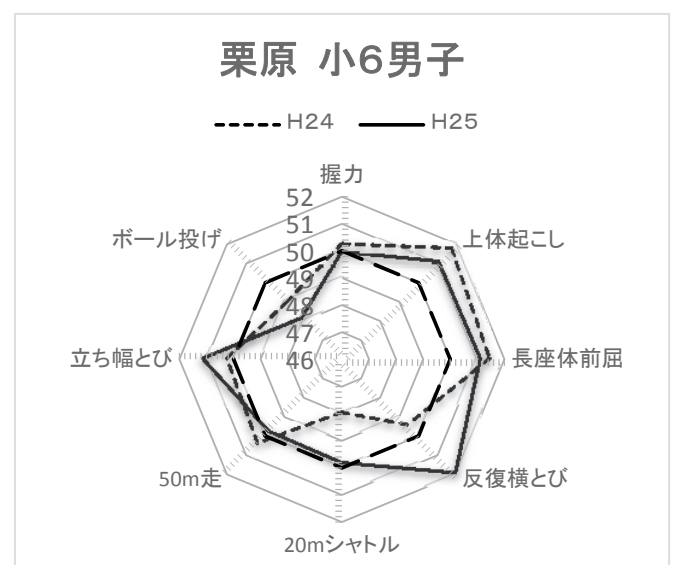
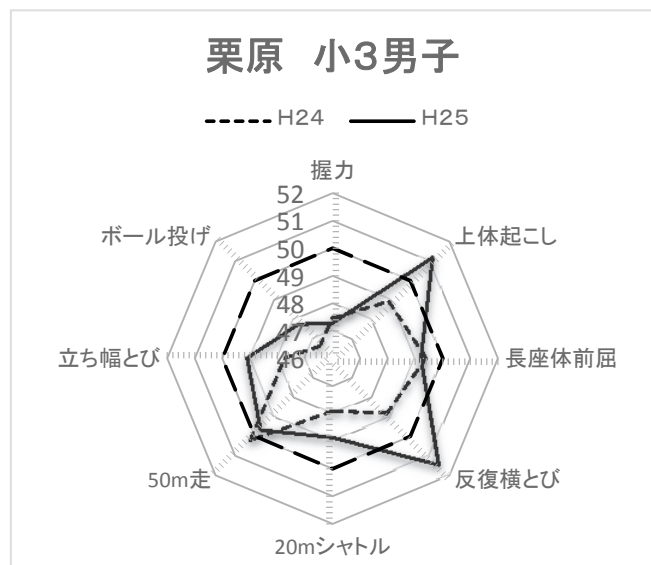
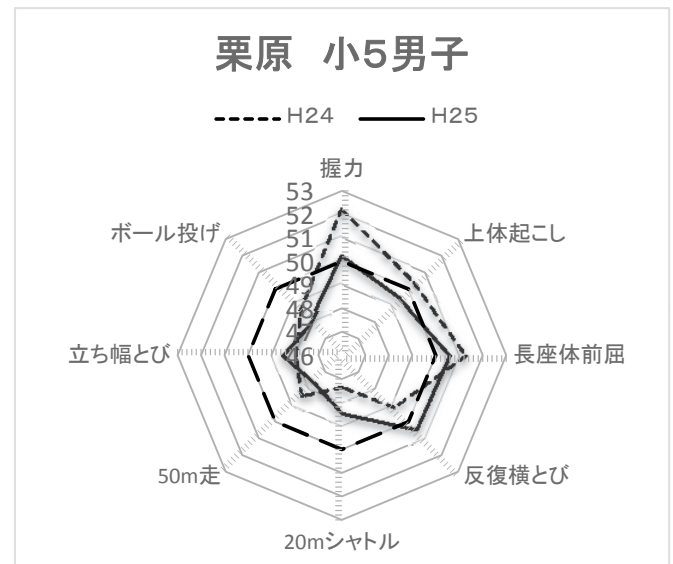
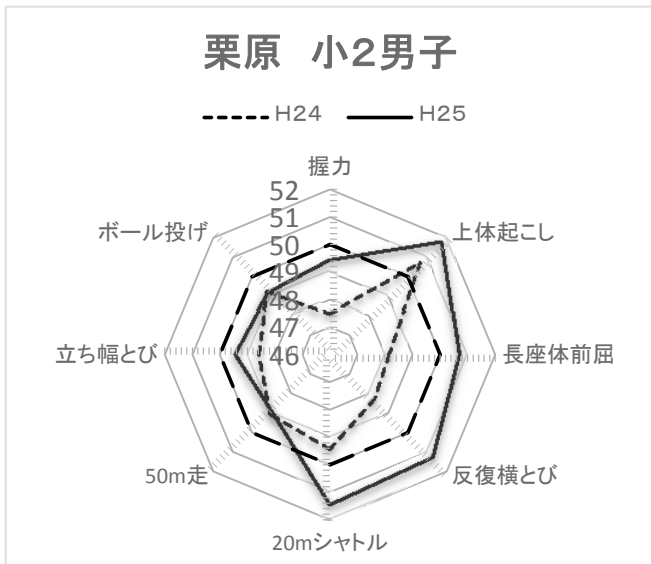
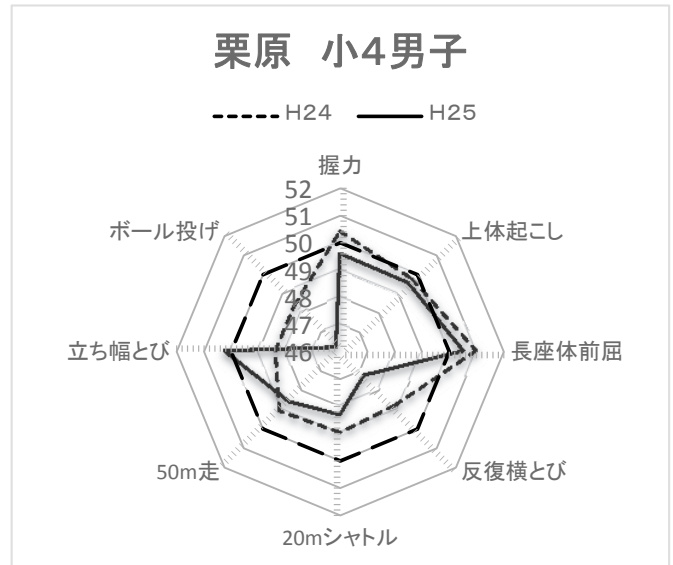
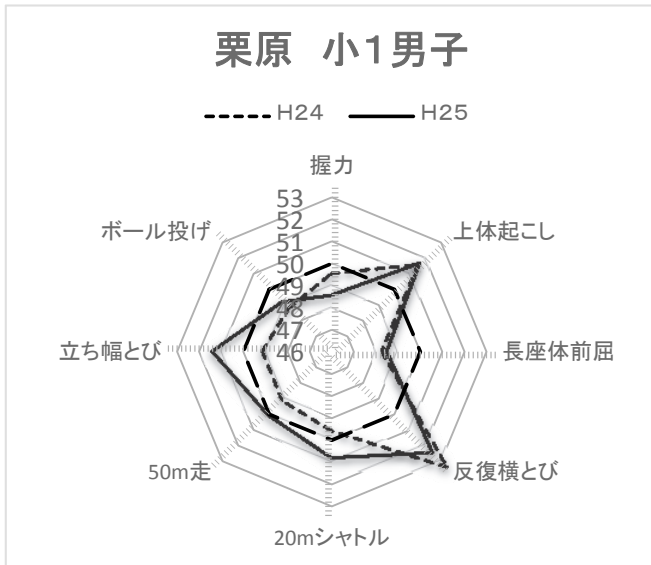
平成22年度(震災前)との比較【北部管内】

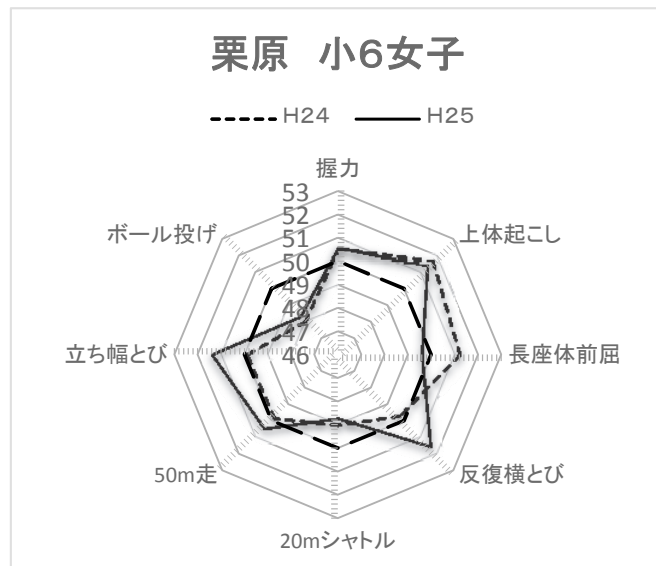
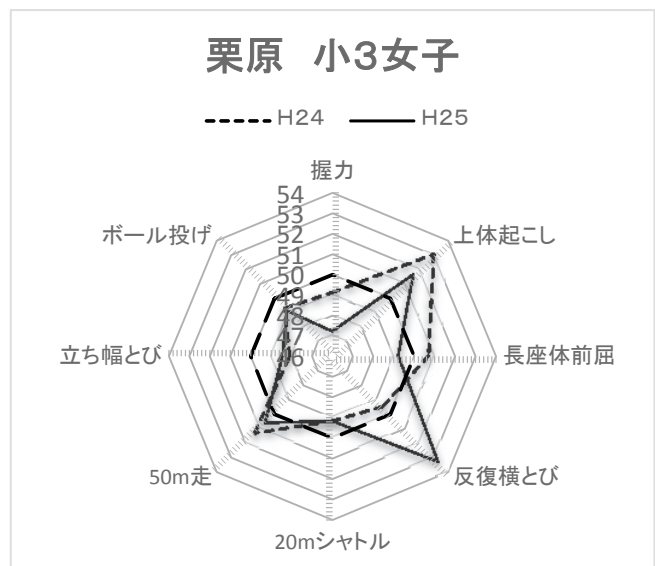
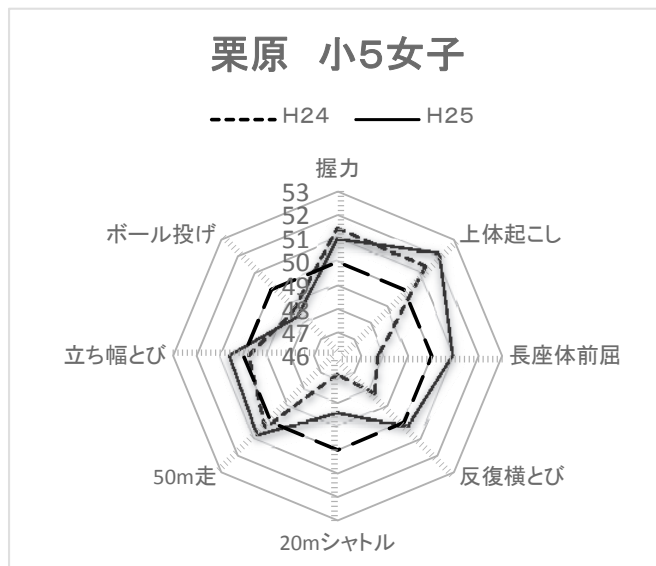
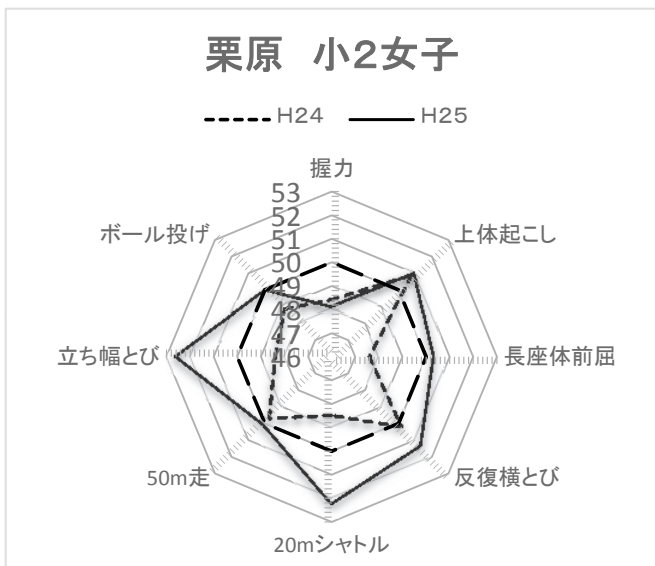
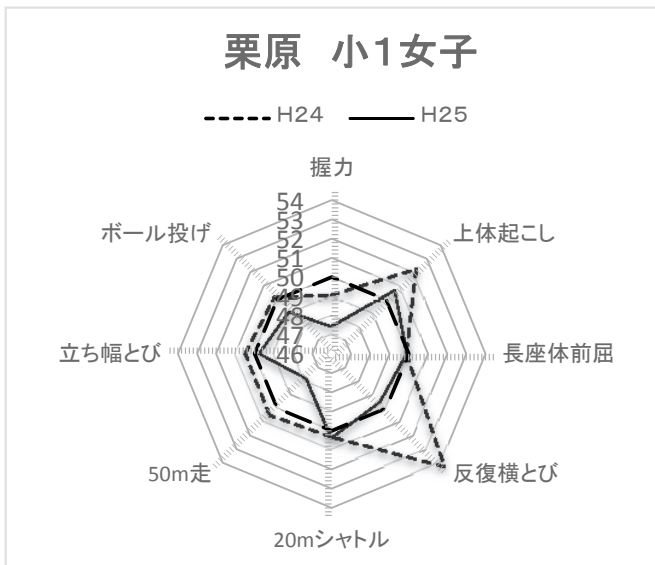
(Tスコアによる…50のラインがH22)

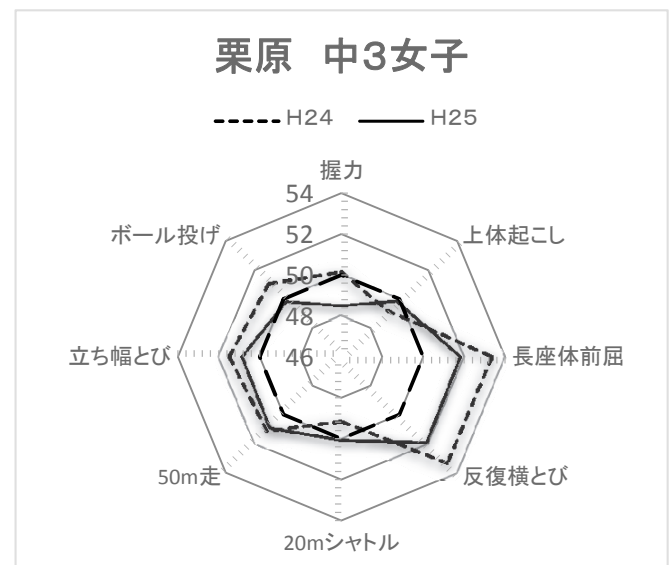
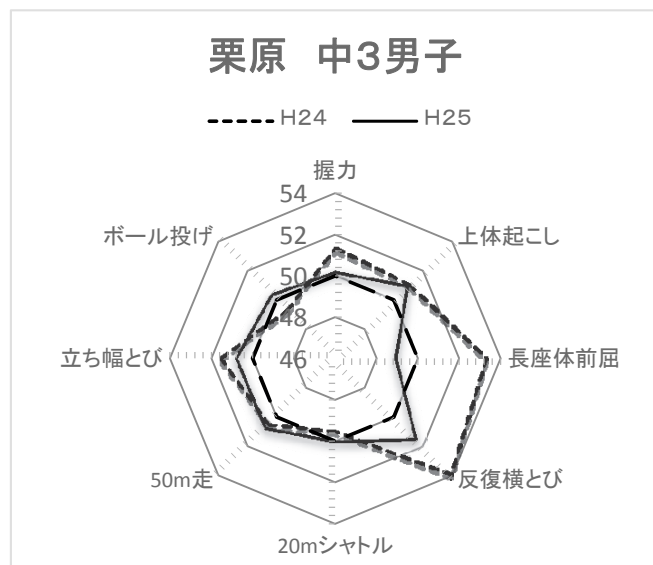
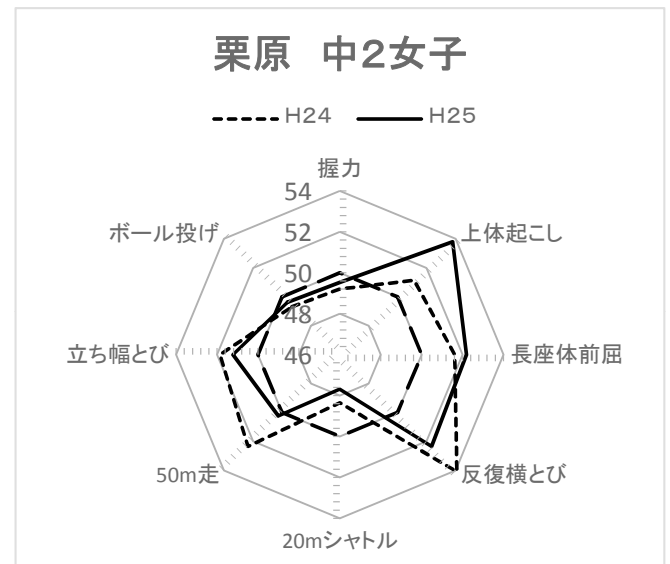
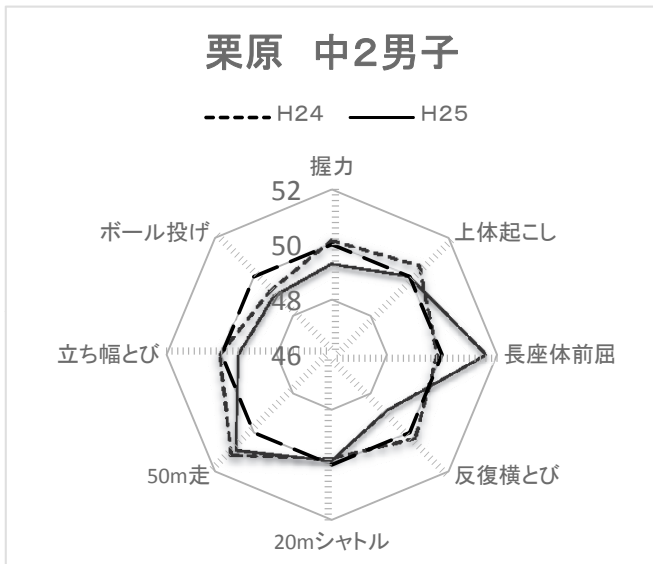
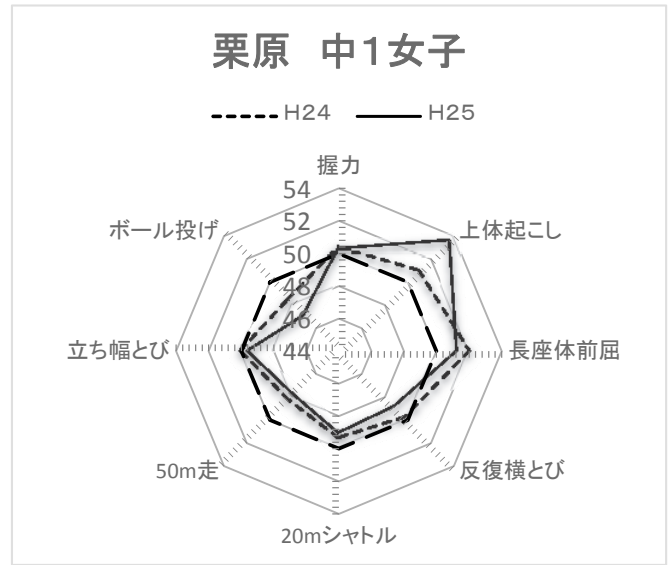
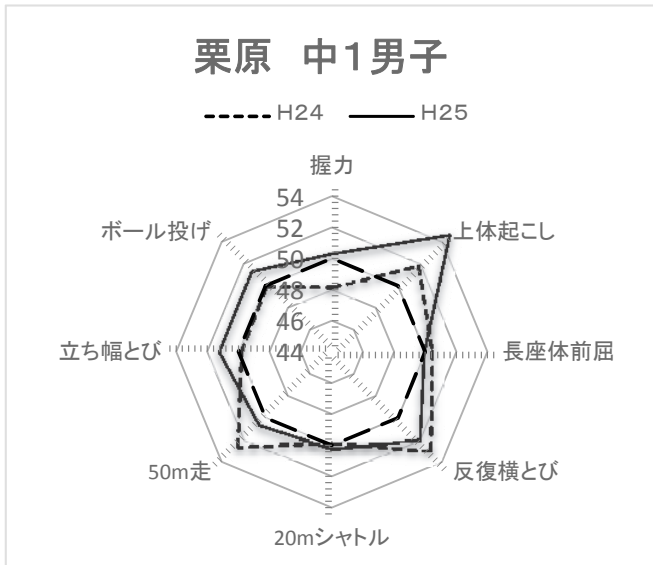


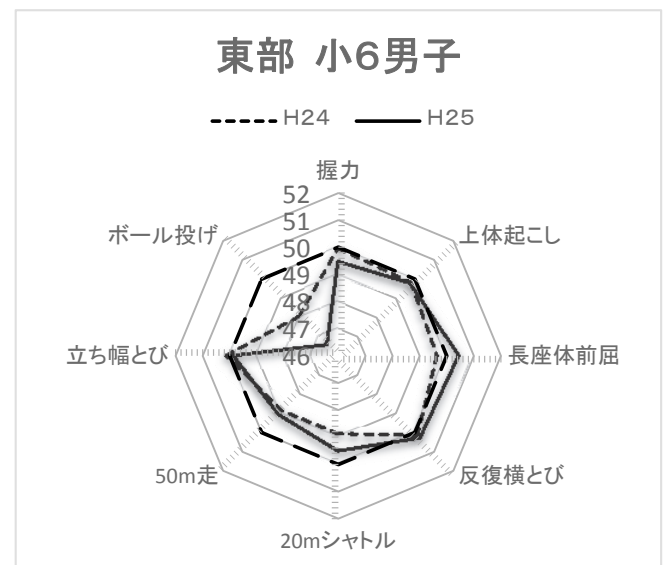
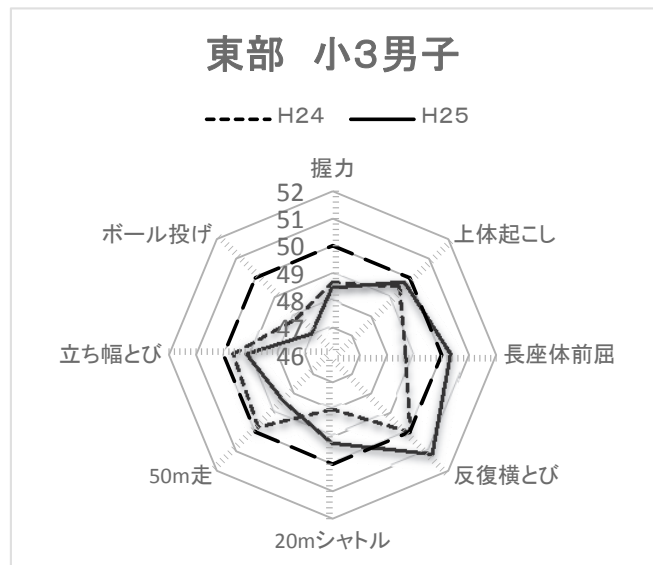
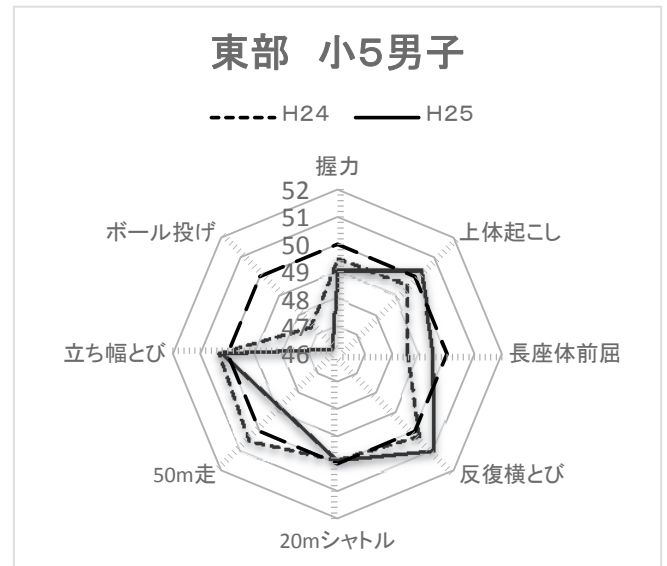
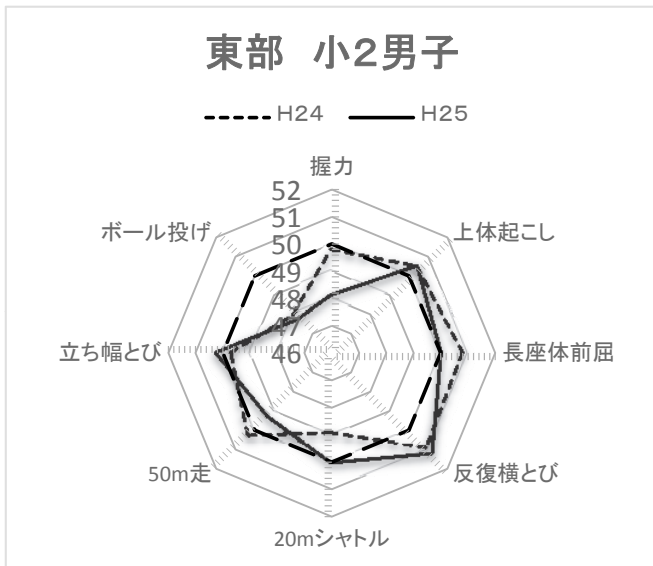
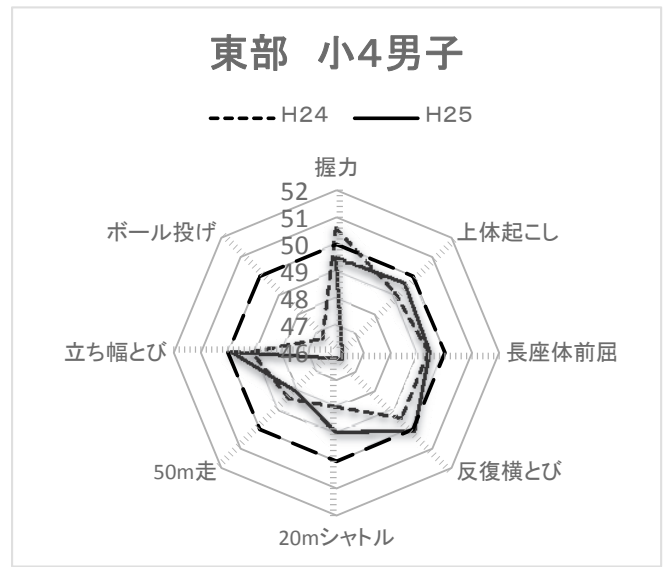
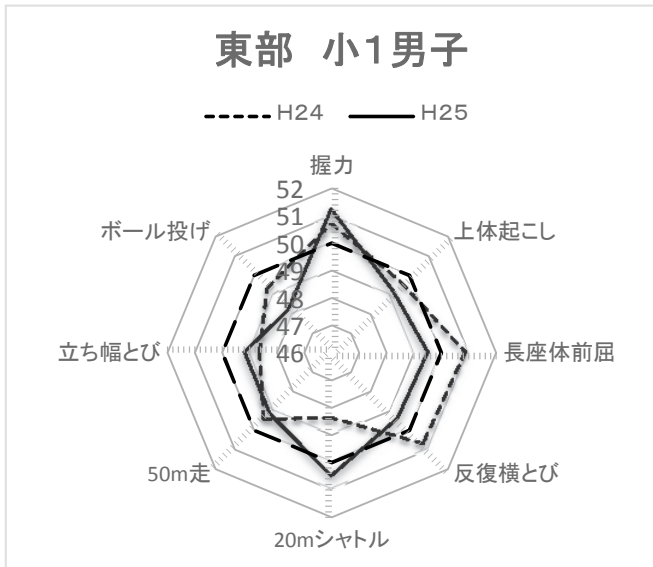
平成22年度(震災前)との比較 (Tスコアによる…50のラインがH22)

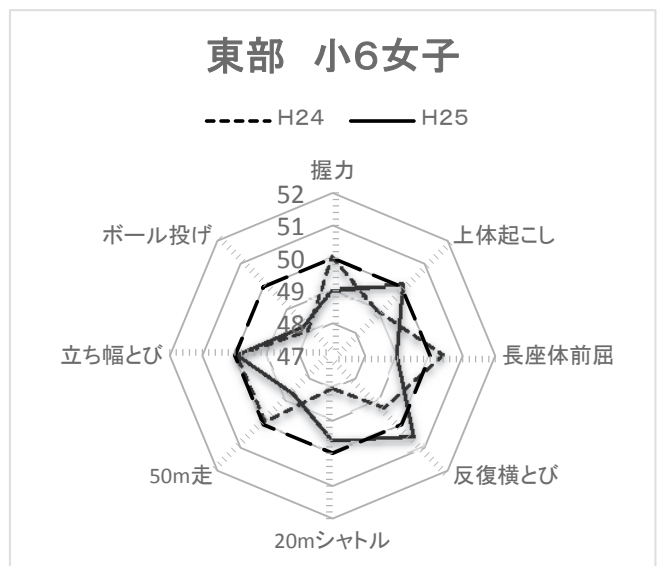
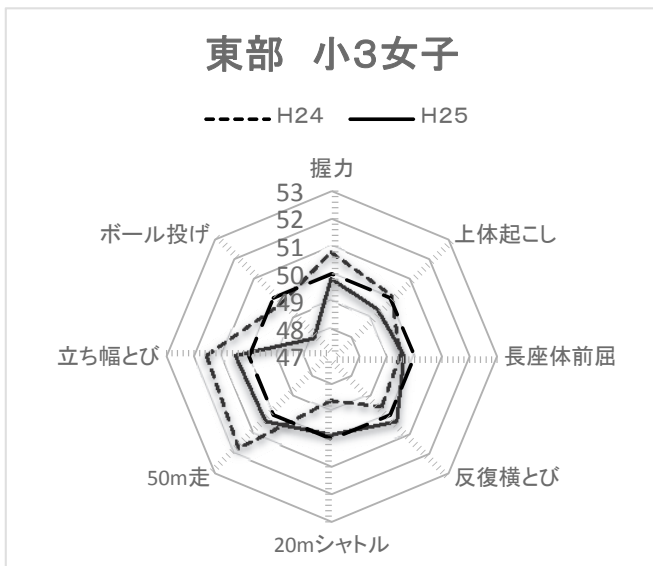
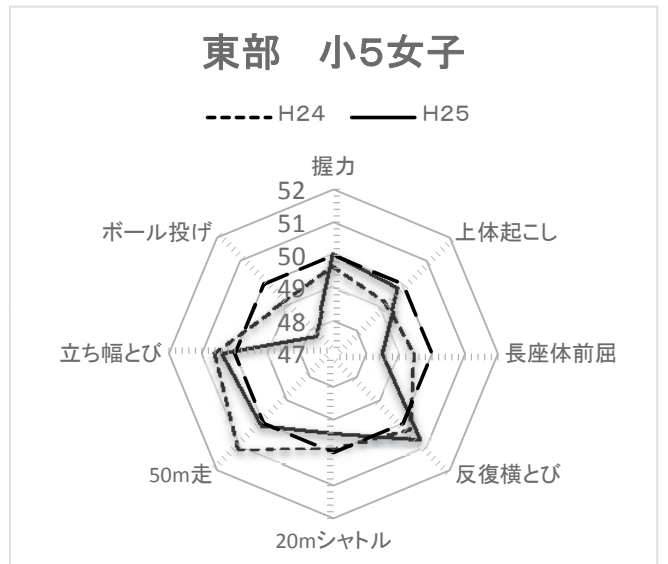
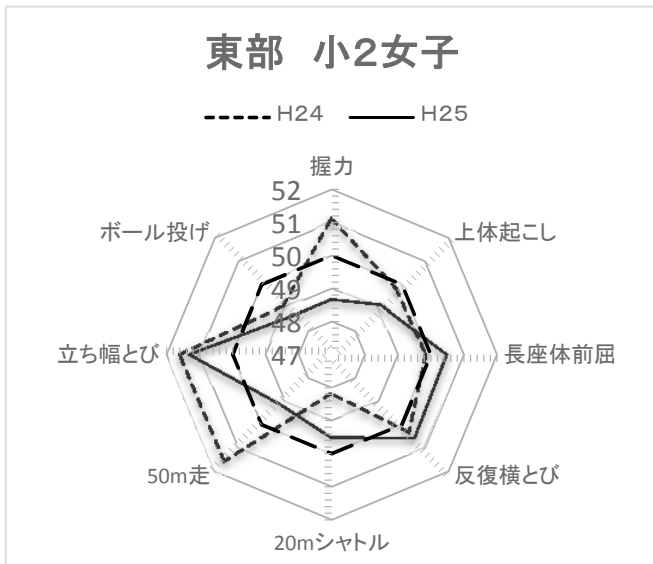
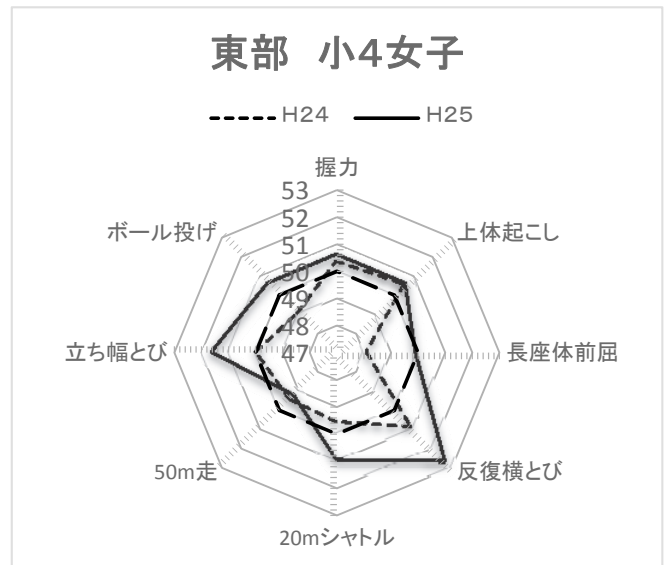
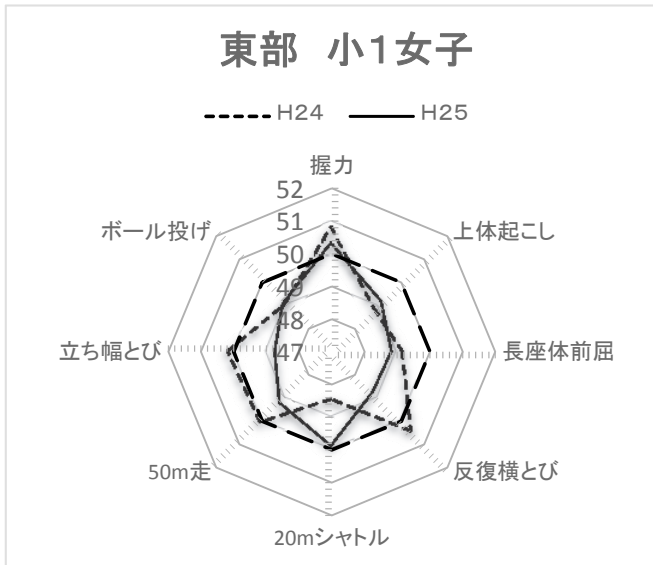


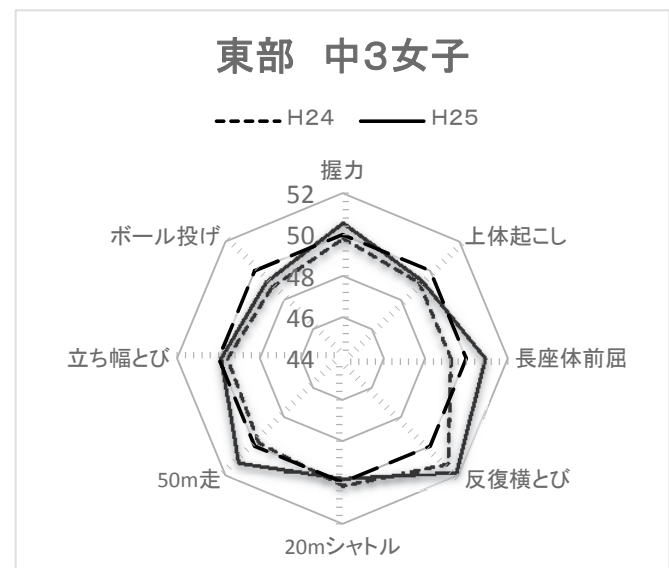
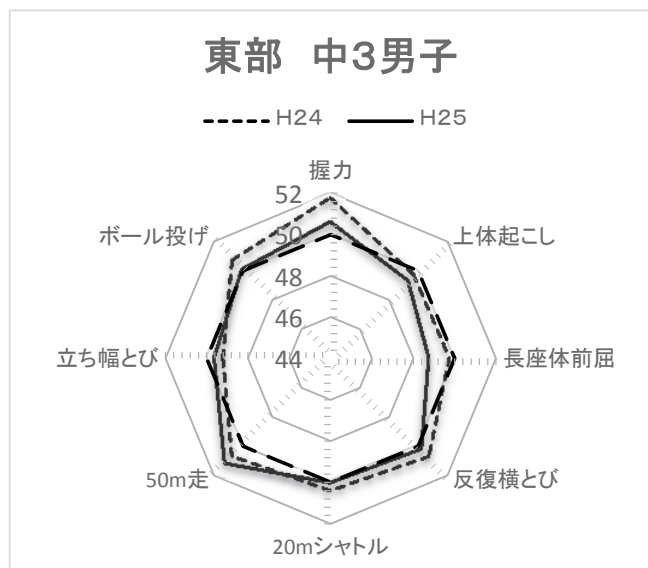
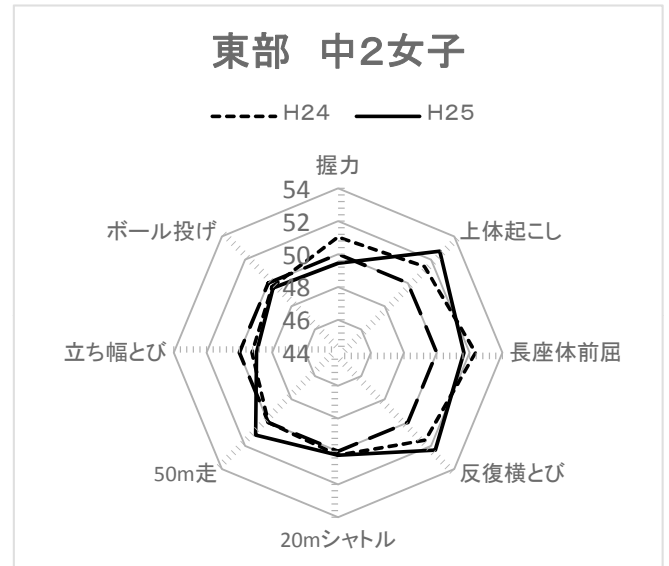
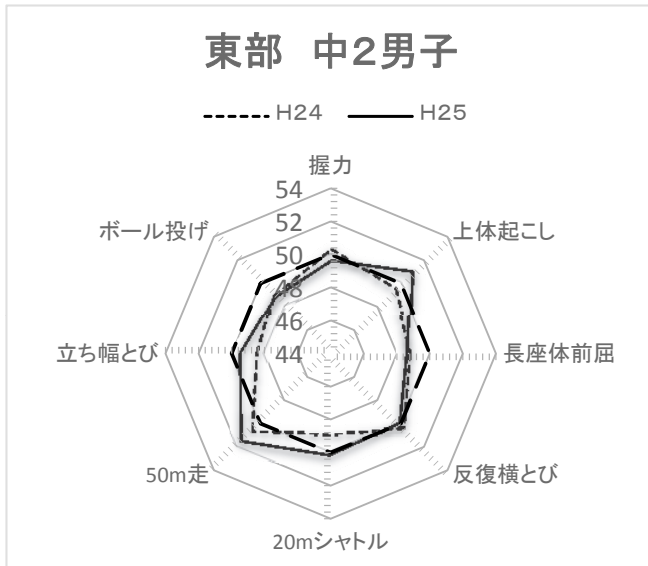
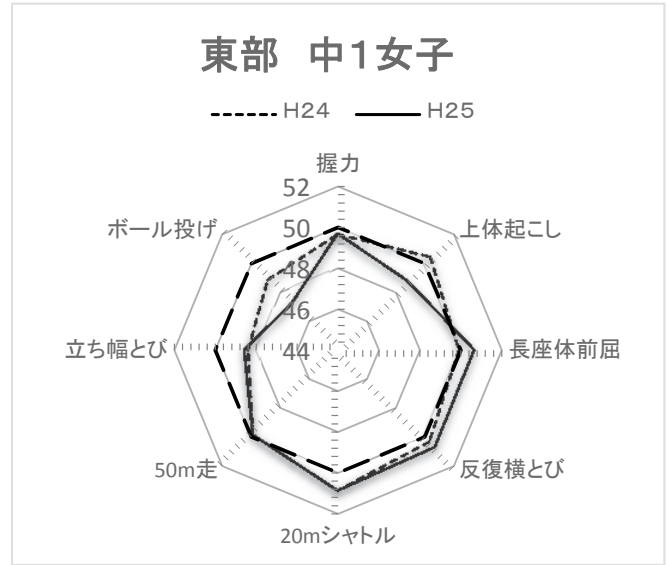
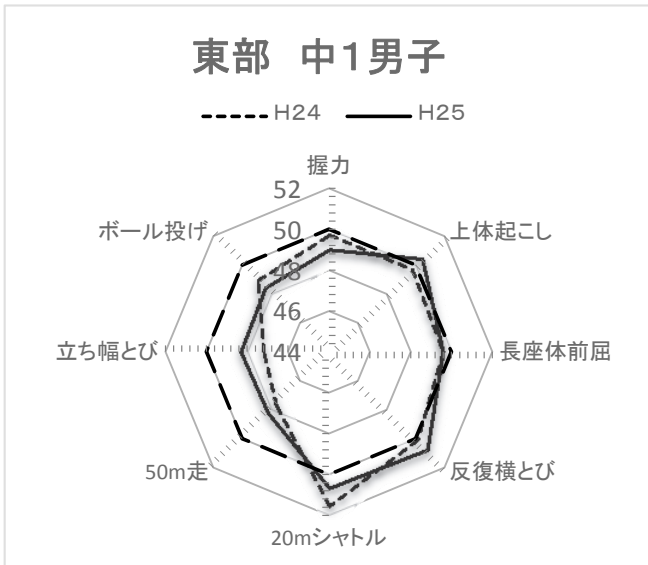






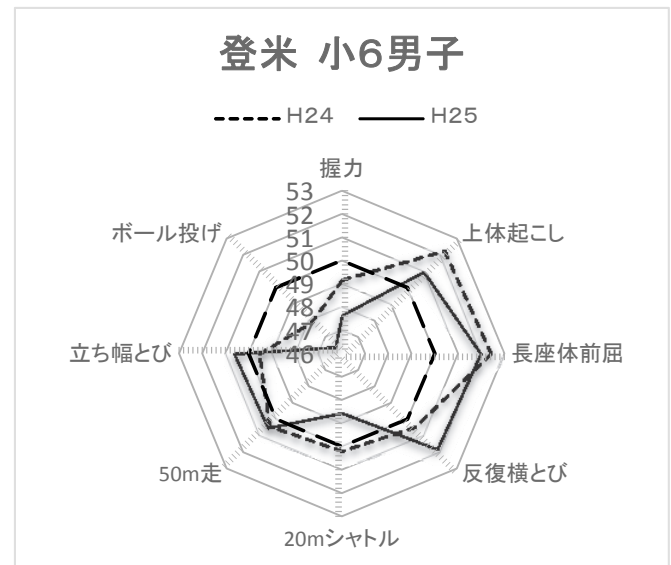
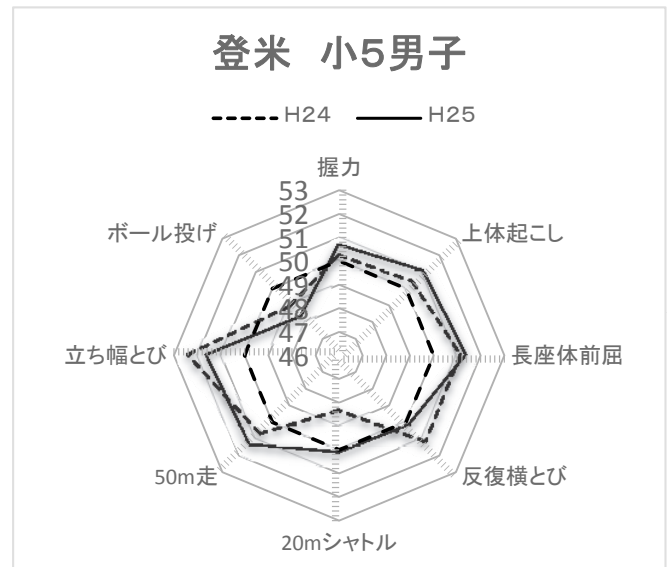
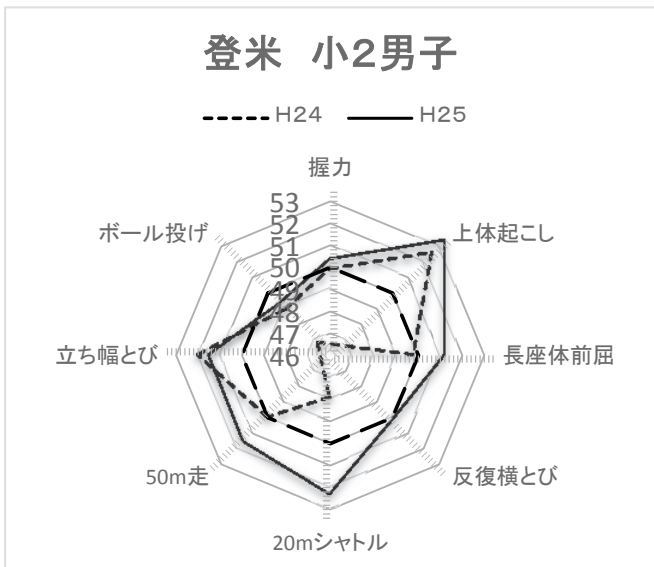
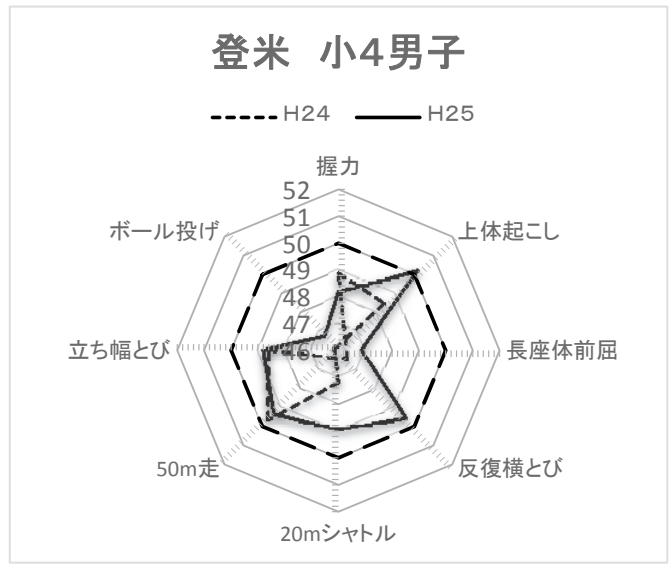
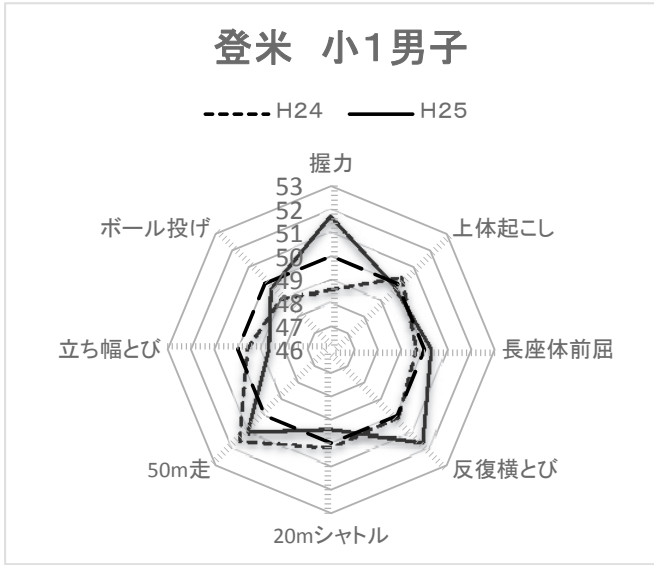






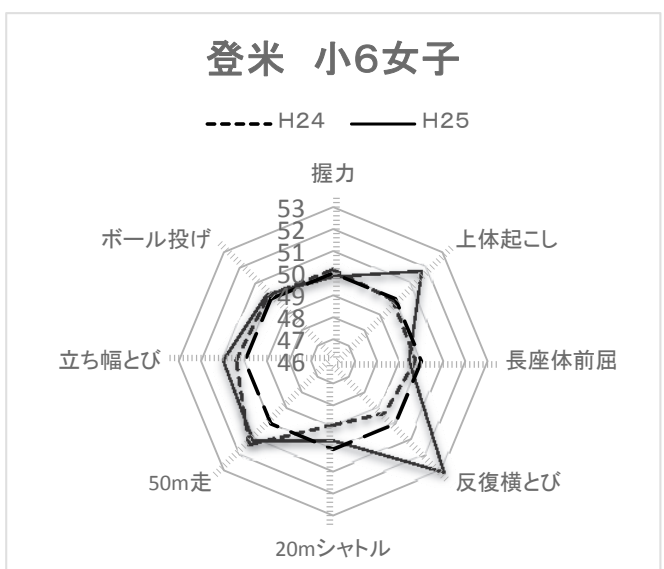
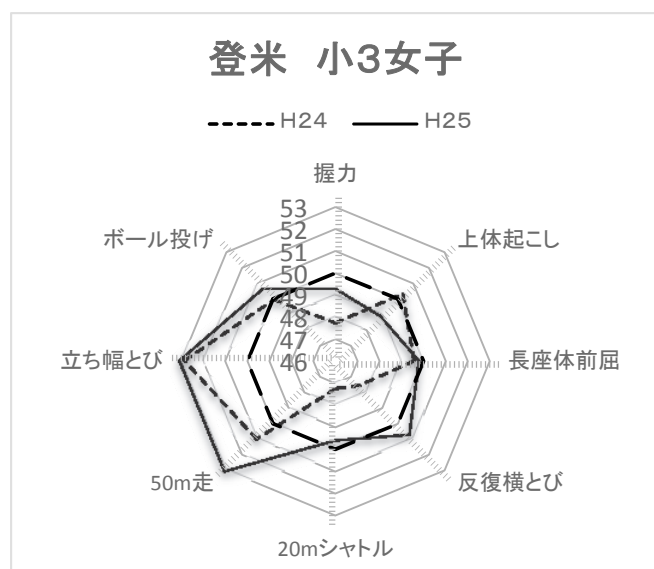
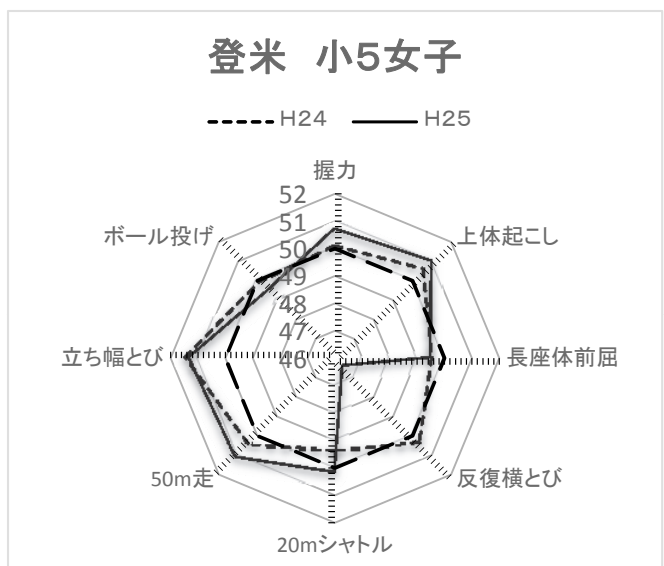
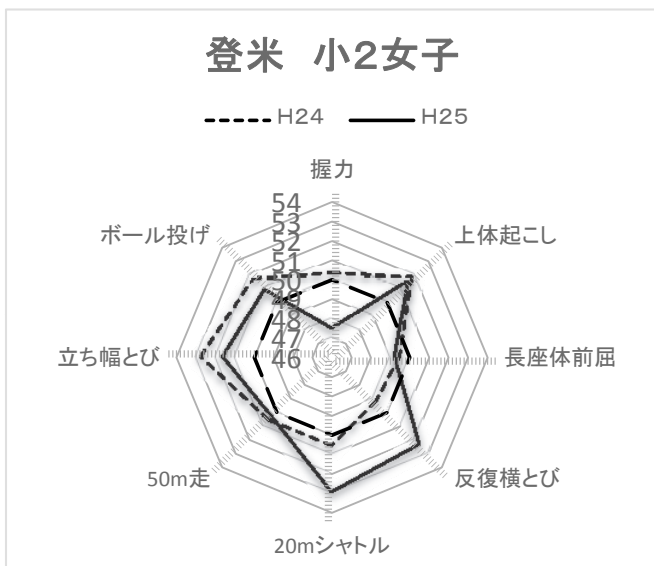
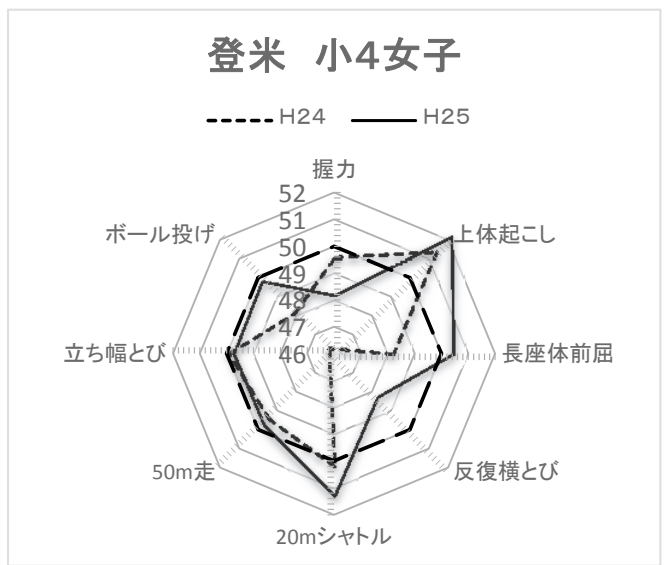
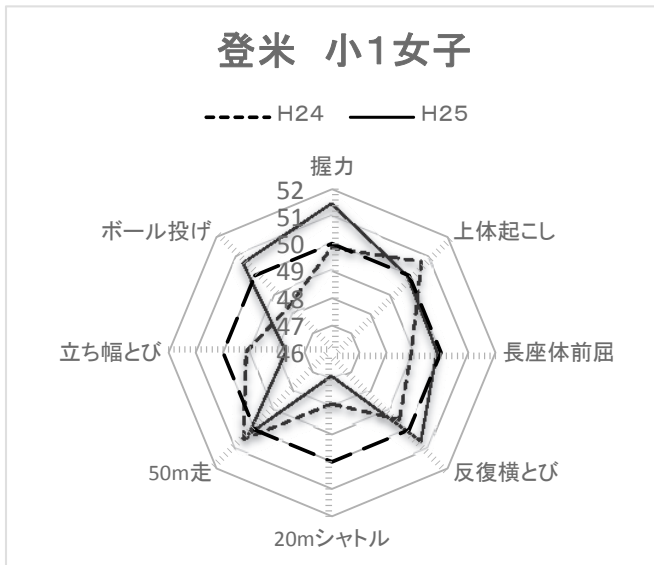
平成22年度(震災前)との比較【登米管内】

(Tスコアによる…50のラインがH22)



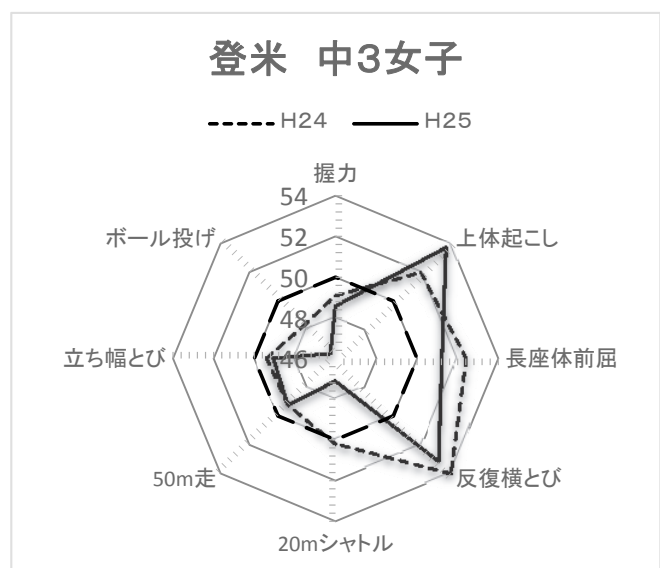
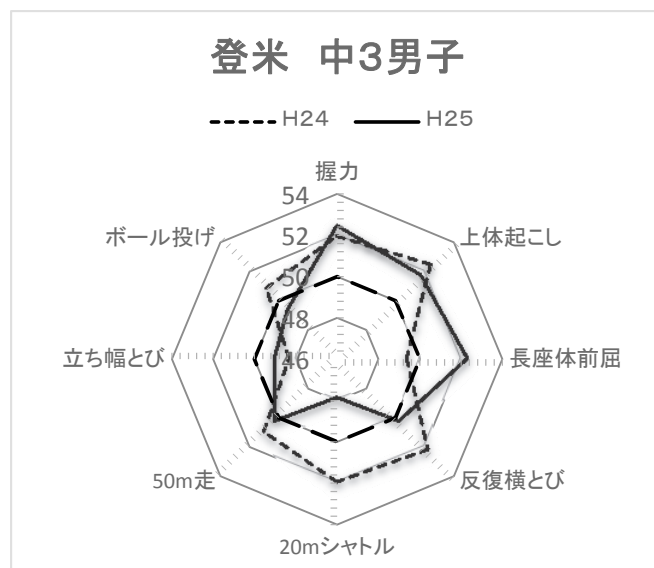
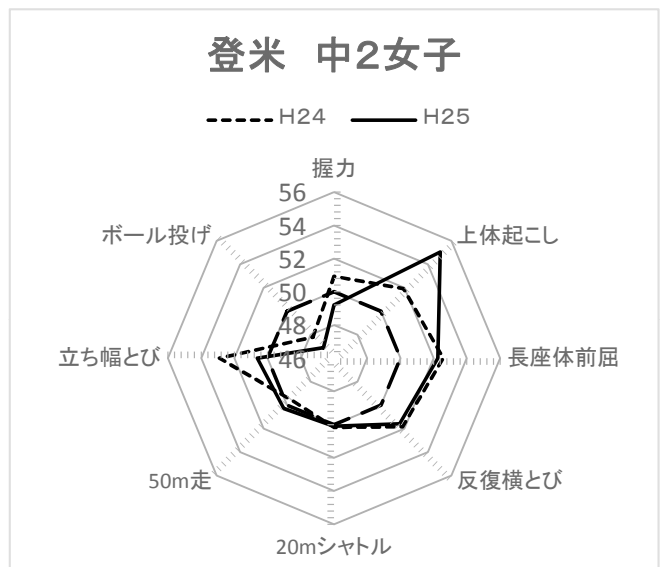
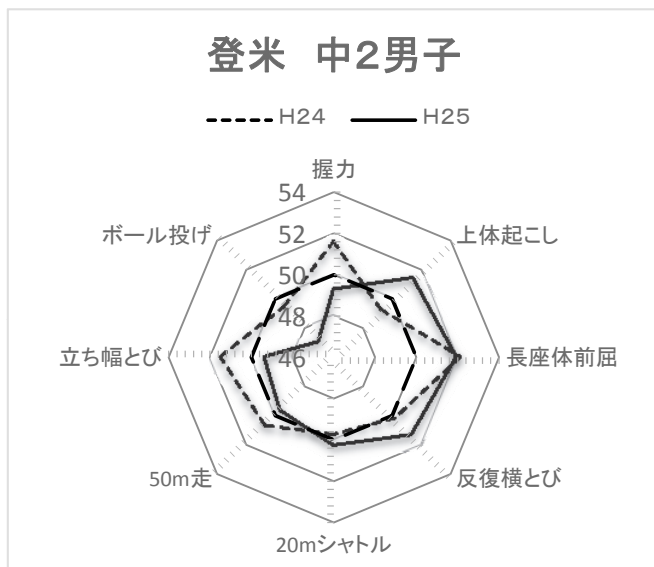
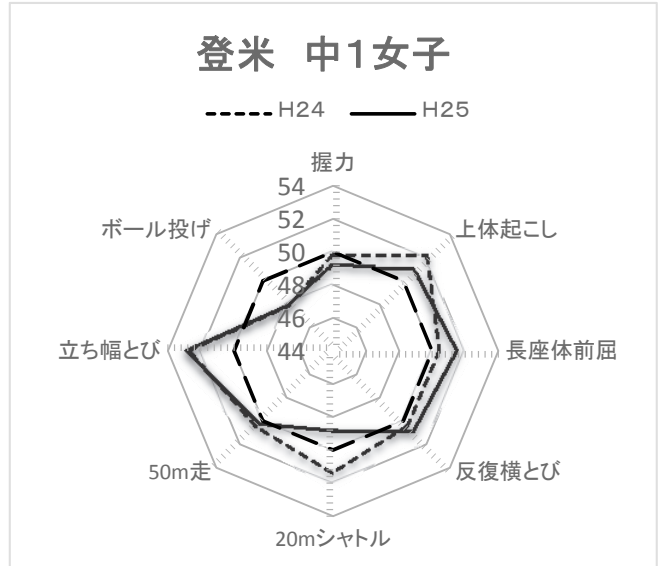
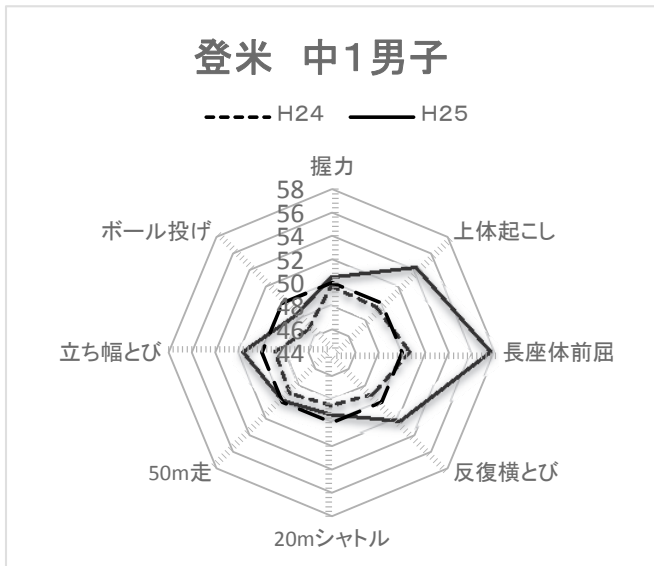
平成22年度(震災前)との比較【登米管内】

(Tスコアによる…50のラインがH22)



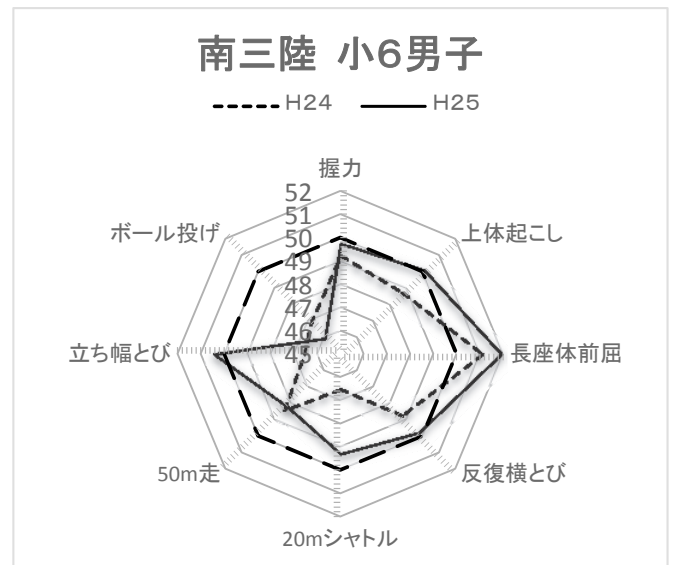
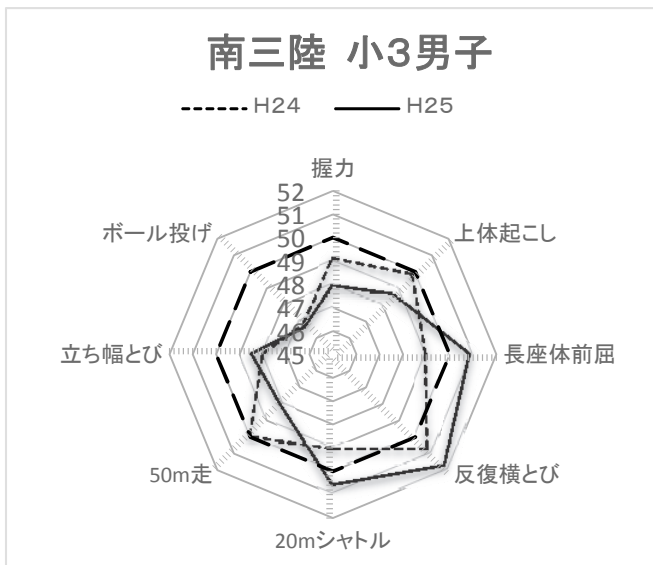
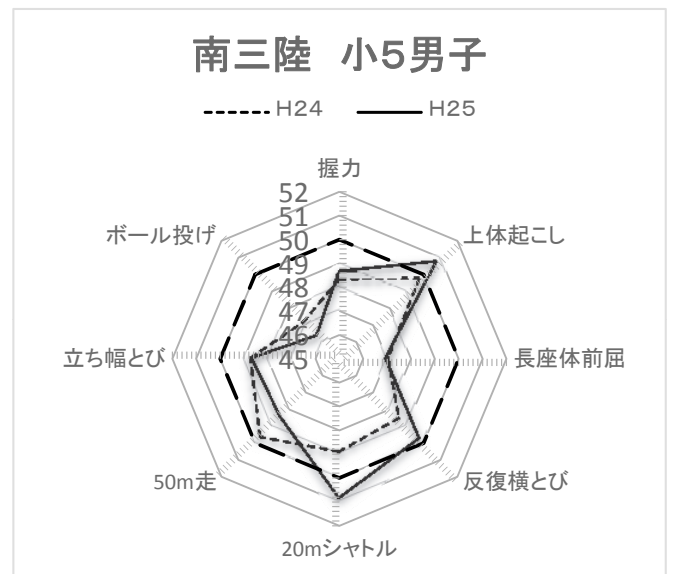
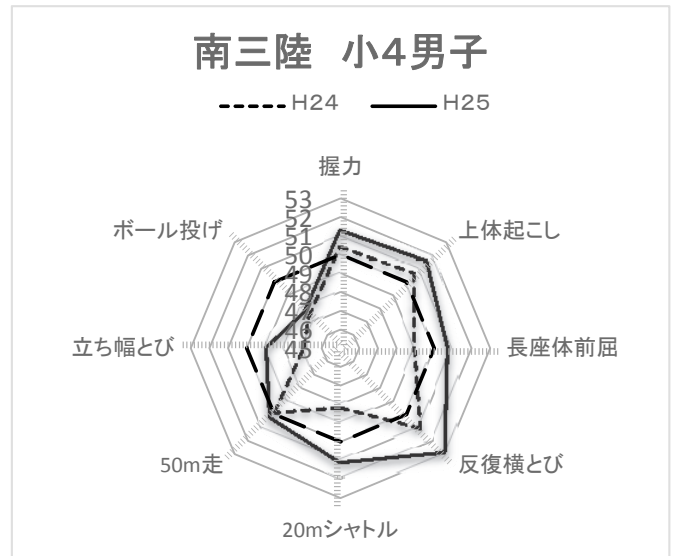
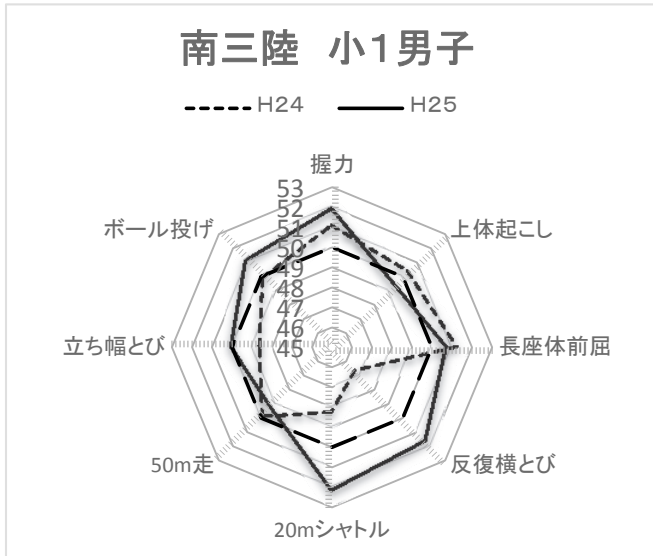
平成22年度(震災前)との比較【登米管内】

(Tスコアによる…50のラインがH22)



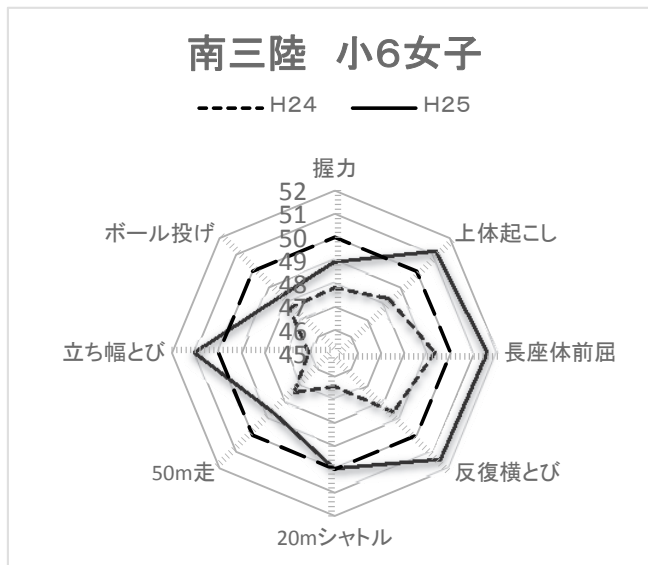
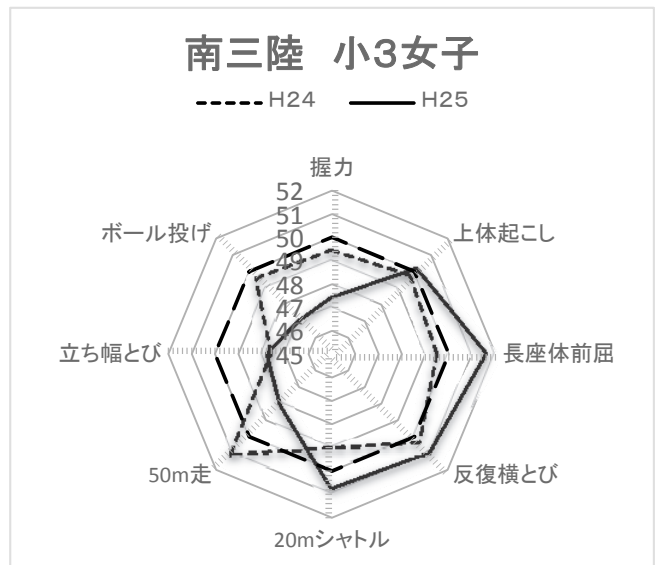
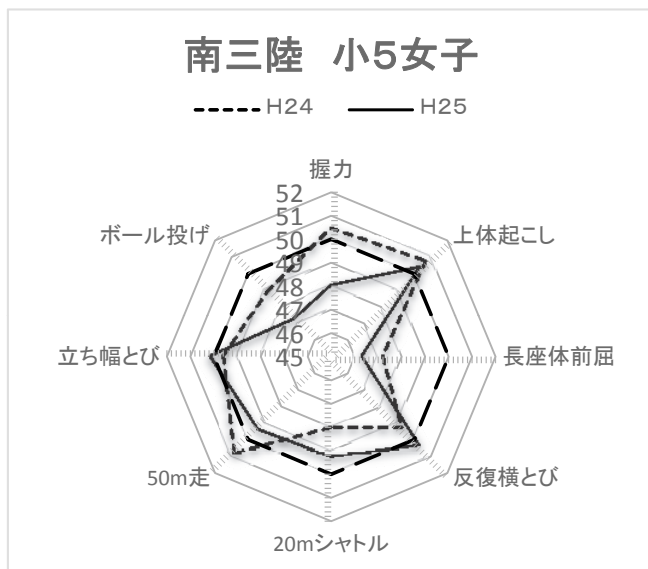
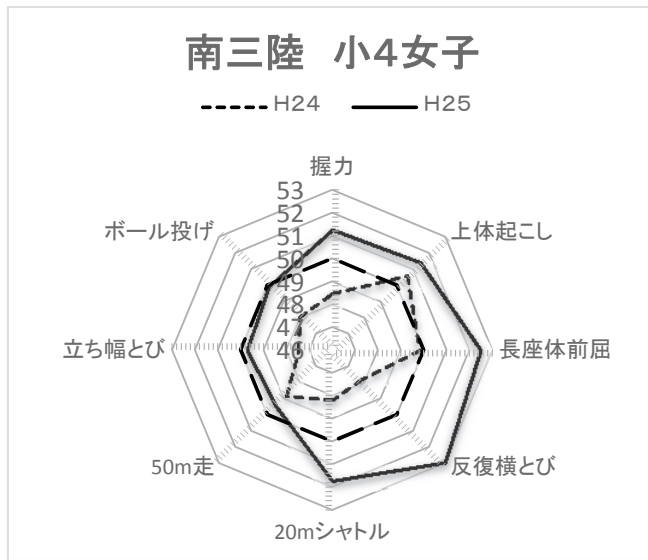
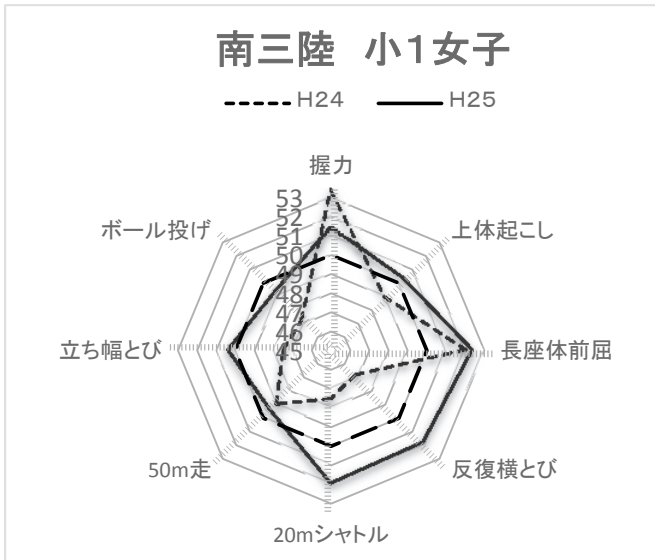
平成22年度(震災前)との比較【南三陸管内】

(Tスコアによる…50のラインがH22)



平成22年度(震災前)との比較【南三陸管内】

(Tスコアによる…50のラインがH22)



平成22年度(震災前)との比較【南三陸管内】

(Tスコアによる…50のラインがH22)

